

参考資料

令和6年度使用小学校用教科用図書 調査資料

第18採択地区教科用図書採択地区協議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
26 信 教	一般社団法人信州教育出版社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
116 日 文	日本文教出版株式会社
207 文教社	株式会社文教社
208 光 文	株式会社光文書院
224 学 研	株式会社 Gakken

国語科（国語）調査資料

書名 項目	『 続編 新しい国語 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○文法と語彙に特化した小教材「言葉相談室」、巻末に「言葉の広場」を設け、文法や語彙が習得したり、語彙を増やして表現を豊かにしたりできるよう工夫されている。 ○情報の扱い方に関する単元を年3か所設置し、系統立てて指導ができるように工夫されている。また、学習効果を高めるために、読む教材と各教材の橋渡しの位置付けとしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「見通す」「取り組む」「ふり返る」の段階を踏んで単元が構成されており、児童が課題意識を持ちながら身に付けたい資質・能力への自覚を高めて、主体的に学習することができるよう工夫されている。 ○説明文教材では、実用的なテキストを読み比べて表現の工夫が読み取れるような構成となっている。また、「読むこと」と「書くこと」が関連付いた単元構成になっており、身に付けた資質・能力を、効果的に活用することができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「ふり返る」では、自らの学習を価値付ける視点を投げかけ、身に付けた「言葉の力」を確認し、学んだことを他教科や日常生活に活用できるよう工夫されている。 ○四季に合わせて「季節の足音」を設け、季節感のあふれる詩や短歌、俳句、二十四節気や和風月名などを掲載し、言葉の美しさが味わえるように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○図書館の活用について、学校図書館の使い方、資料の使い方や選び方やその他の施設について紹介するなど、読書生活が豊かになるような構成が工夫されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○導入に動画や大きなイラスト、写真を取り入れ、主体的に取り組もうとする態度を育み、学習への期待感を引き出す工夫がされている。 ○QP コード「思い出そう」により、前学年での既習事項や関連する学習を振り返ることができ、学習の定着が期待できる。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○動画や音声、資料などデジタルコンテンツが豊富に準備されており、特にエラーモデルを取り入れることで学習のねらいや課題意識が明確になるよう工夫されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○導入が見開きで簡潔にまとめられており、学習の見通しをもちやすくなっている。また、大きな挿絵や写真を使用し、教材への興味や学習意欲を高める工夫がされている。
表記・表現	○2年まで分かち書きで表記されている。 ○QR コンテンツに字幕機能がついている。簡条書きや図解、イラストもあり誰にでもわかりやすい工夫がされている。
総 括	○「見通す」「取り組む」「ふり返る」という学習過程がすべての単元にあり、学習課題を明確にし、見通しをもって課題解決的な学習ができるように工夫されている。児童だけでなく、教師にとっても学習過程がわかりやすいよう構成されている。 ○考えを形成する手立てとして、国語ノートの作り方や思考ツールを掲載し、思考を整理できるよう工夫されている。

国語科（国語）調査資料

書名 項目	『ひろがる言葉 小学国語』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻末に「言葉の道具箱」「言葉の木」を設け、語彙を広げたり、学習の理解を深めたりできるような工夫がされている。 ○必要な情報を取り出したり、情報と情報との関係を整理したりできるように、体系的なまとめページを巻末に設定し、複数の教材や他教科でも反復練習や活用ができるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「見通しをもとう」で単元のめあてを提示することで、取り組む課題を明確にし、課題意識をもって学習に取り組むことができる単元構成になっている。「読むこと」の教材には手引きがあり、学習内容を端的につかみやすくなっている。 ○意見や考えを整理したり、広げたりすることができるように、デジタル教材の中にさまざまな種類の思考ツールを準備し、学習場面に応じて選択することができるようにになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞
	○学びの見通しと振り返りができるようになっており、児童が主体的に学習に取り組むための工夫がされている。 ○「言葉の文化」を設け、多様な分野からすぐれた文学作品を選定し、音読や表現活動を通して、言葉のもつよさ、日本語の美しさや豊かさを味わえるようにしている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○学校図書館の利用や活用を図る「情報読書教材」、図書の紹介を中心とした交流活動を行う「交流読書」が設定されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、実生活にかかわる必要感のある課題を設定することで学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻頭において、どのような学習をするのかを見通し、学習したことが生活のどのような場面で役立つのか示している。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QR コンテンツ「学びリンク」では、外部サイトの動画を視聴できたり、補充教材が利用できたりするため、学習内容の活用につながる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○1年入門期では、文字のポイント数を変化させたり、見開きで教材が完結させたりし、入門期の児童が視覚的に教材をとらえ学びやすいよう工夫されている。
表記・表現	○2年上巻の途中まで分かち書きで表記されている。 ○物語文と説明文に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、読みやすいように表記が工夫されている。
総 括	○学習の手引きが設定されており、学習過程が明確になるとともに、見通しをもって学習できるような構成となっている。また、巻末に語彙や言葉の知識をまとめ、語句集めと文作りの活動を通して、語彙を増やし活用できるよう工夫されている。 ○必要感のある身近な課題を設定し、他教科と関連付けながら学習できるような構成が工夫されている。

国語科（国語）調査資料

書名 項目	『 国語 』 発行者番号 38 発行者名 光村
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻末に「学習に用いる言葉」や「言葉の宝箱」を設置し、既習の言葉も掲載することで、語彙を増やしたり理解を深めたりできる工夫がされている。 ○2年生以上に「情報」を扱った単元が設定されており、情報同士の関係をとらえて理解したり、情報をわかりやすく整理したりして活用する力が身に付けられるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「問いをもとう」「目標」「ふりかえろう」により、児童が学習の見通しを持ち主体的に学ぶことができるよう構成が工夫されている。また、説明文教材では、実用的な文章を読み比べて表現の工夫等が読み取れるよう構成されている。 ○意見や考えを整理したり、広げたりすることができるように、デジタル教材や思考ツール等、学習場面に応じて各自が使いたいツールを選択することができるよう工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○課題意識・目的意識をもって意欲的に取り組み、自分自身で気付きを得て達成感を味わうことができる学習活動の工夫がされている。 ○「声に出して読もう」や「季節の言葉」を設け、音読や表現活動を通して、言葉のもつよさや日本語の美しさを味わえるようにしている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○学校図書館の活用について、1～5年では学校図書館、6年では公共図書館に関する教材を設定し、目的に合った活用方法が理解できるように工夫されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○教材の導入部分に、学習のめあて、リード文、イラスト、これまでの学習が記載されており学習の見通しと学びの意欲を喚起できるようになっている。 ○デジタルコンテンツの「話すこと・聞くこと」では、単元の導入として「問いをもつための動画」があり、工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○作者による作品解説動画、古典教材の読み上げ、写真・図、資料など、教材の理解を深めることができるようQRコンテンツの内容が充実している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げられる絵や写真を掲載している。学習の流れを把握し、見通しを持つことができるようにレイアウトが工夫されている。
表記・表現	○2年上巻の途中まで分かち書きで表記されている。 ○原則として交ぜ書きをしないように配慮され、詩歌は原作のまま掲載し、未習の漢字はふり仮名をつけて掲載している。
総 括	○単元冒頭に活動の流れや振り返り、問いを示すことで主体的に見通しをもって取り組めるように工夫されている。また、振り返りの観点を3観点示すことで何を学んだかが明確になっている。 ○デジタルコンテンツが充実しており、思考ツールや、読むこと、書くことでの問いをもてるような動画や書くことの手助けになる資料が掲載されている。

国語科（書写）調査資料

書名 項目	『 新しい書写 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○各単元で扱われる学習事項ごとのポイントを「書写のかぎ」として示し、わかりやすく説明されている。 ○硬筆の中から課題を見出し、毛筆で学習事項を確認し、その成果を硬筆に生かすという学習の過程で各単元のねらいが達成できるよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○対話的な学習を促す設問で、友達と考えたことを話し合う活動が意図的に組み込まれている。 ○各単元の最後に「生かそう」（まとめ）の学習過程があり、本時の学習を生かして自分で考えて取り組む問題が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○導入段階で児童が日常から課題を見付けられやすいように例を示し、「どちらが～だろう。」「～はどちらだろう。」などと問いかけ、考えたい場面を設定している。 ○書写の学び方や見開き紙面の工夫などで学習過程がわかりやすいので、見通しを持って学習に取り組むことができる。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○単元が、硬筆による試し書き・毛筆での練習・硬筆で別の文字を書き定着・振り返り、という展開で、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成されている。 ○水書用筆等の取扱いについては、「いろいろな道具をつかってみよう」という題でまとめて2年生で取り扱っている。 ＜各教科や日常生活との関わり＞ ○「学びを生かそう」「生活にひろげよう」など、各教科や生活に生かせる単元や「文字と いっしょに」という文字文化に触れるコラムが全学年に設定されている。 ○各教科と関連する箇所には「リンクマーク」がつけられ、明確に示されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「文字と いっしょに」の単元では、子供たちの身近なところから書くことのよさを実感できる話題を取り上げており、文字に対する興味や関心がもてるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QR コンテンツがすべての基本単元に設けられており、課題を見付ける際や毛筆の運筆を確認する際に活用することができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○各単元が見開きで示され、その中で学習事項やポイント・学習の流れなどがうまく完結するよう紙面が工夫されている。
表記・表現	○あまりイラストなどを使用せずシンプルな構成であり、単元ごとのポイントが「書写のかぎ」として示されており端的でわかりやすい。 ○同じマークが使用されていたり、字形や配列等の分野ごとに色分けがされていたりして、統一されている。
総 括	○2年生以上で書写の学習過程が「書写の学び方」として示されており、課題を見付け、確認し、生かし、納得するという流れがわかりやすく示されている。 ○3年生以上では、学習事項が確認できるインデックスがあり、学習内容が全体の中で確認できるように工夫されている。 ○様々な授業の場面に合わせた QR コンテンツが用意されている。 ○左利きや色覚特性への配慮がされているなど、個に応じた工夫がなされている。

国語科（書写）調査資料

書名 項目	『 小 学 書 写 』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○学習過程が「学習の進め方」として示されており、めあてをもち、理解し、書いて応用を図り、振り返るという学習の過程で構成されている。 ○「レットライ」では、横書きの書き方や書写の学習内容を生活の中で生かしていく方法など、発展的な内容が取り入れられている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「ためし書き」と「まとめ書き」を設定することで、毛筆においてどの部分に気を付けたらよいのかを思考しながら書き、伸びが実感できるよう工夫されている。 ○比べて話し合う活動を取り入れた構成になっていて、自分の考えを伝え合う活動が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○書写で身に付けた力を他の学習場面でも生かせるよう、国語や理科、社会など、書写と他教科を関連付けていたり、はがきやメモなどの教材を取り上げていたりする。 ○自分のめあてに合った「選択」問題を設けることで、自分の学びたい事をさらに追求できるようになっている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○毛筆の前後に、硬筆での「ためし書き」と「まとめ書き」を教科書に書くことで、硬筆にも生かせるようになっている。 ○水書用紙については、1年生ではなぞり書きができるようなぞり書きの線が印刷されていて、2年生では自由に書けるように白紙になっている。 ＜各教科や日常生活との関わり＞ ○横書きのノートの使い方や、招待状、紹介カード等、言語活動例と対応し、日常の場面でも生かせるよう工夫されている。 ○国語の教科書と連動した教材が使用されており、一体的に学習できる。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○手書きをする場面について日常生活と関連付けて紹介されていたり、2年生では3年生の毛筆の学習を取り扱ったりして、今後の学習に意欲をもたせるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○書き方の動画や資料を QR コードで読み込めるようになっていて、QR コードの中にマークがあり、QR コードの内容が動画か資料のどちらなのかがすぐわかる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○写真や具体的なイラストを多く使っていたり、筆圧を数値化したりすることで、親しみやすくなりやすい工夫がされている。
表記・表現	○毛筆教材では、初めに手本を提示し、隣のページに書く上でのポイントや指導事項が細かく示されている。 ○中・高学年では、中心がわかるように縦に2分割され、低学年では、字のマスを4つの部屋に分けて指導できるよう工夫されている。
総 括	○どの学年においても、写真や具体物のイラストを多く掲載し、児童の生活に基づいた例を示している。 ○意欲的に学習できるよう、書くことのよさ、手書きのよさが様々な方法で紹介されている。 ○手本の隣のページに指導事項や気を付けるポイントなどが細かく記載されていて、教師の指導はもちろん、児童が自ら学びを進めることができるよう工夫されている。 ○学習過程に系統性をもたせることで、知識・技能が段階的に習得できるようになっている。

国語科（書写）調査資料

書名 項目	『 書 写 』 発行者番号 38 発行者名 光 村
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○全教材に「たいせつ」という、学習のポイントが一目でわかるような表記の工夫がされていて、学習したことがすぐにわかる。 ○6年生では、「書写ブック」という各学年で学習したことを振り返り、それが日常に深く関わっていることを理解できる項目がある。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○知識を獲得するためのきまりを見つけようとする発問があり、整った字を書くために大切なことを考えるきっかけを与えている。 ○3年生以上の「学習の進め方」では、始めに「考えよう」という課題を設定し、友達と話し合う活動が設けられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各教材を、見開きまたは1ページ構成とし、シンプルで分かりやすいため、見通しをもって学習に向かえる。 ○児童が必然性をもって学習できるよう、日常生活とのつながりを実感できるような学習活動が発達の段階に応じて豊富に設定されている。 ＜毛筆と硬筆との関連＞ ○低学年では、「みずふででかいてみよう」というページで、「はね」や「はらい」の書き方がよくわかるようになっている。 ○3年生以上では、毛筆で学習したことをもとに硬筆に生かす意識を高める硬筆欄が設けられている。 ＜各教科や日常生活との関わり＞ ○国語の教科書と連動できる教材が各学年にあり、国語と一体的に学ぶことができる。 ○原稿用紙や生活科の観察カード、手紙やノートの書き方等も取り扱っており、他教科との関連性が高い。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○書初めや各学年に合った書写に関係しているものの写真を掲載し、日常生活に即した文字に関わる教材を扱うことで、児童の学習意欲を高めている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QRコードでは、「写真」「動画」「アニメーション」の3通りがあり、筆使いを確かめる動画などを見て学習に役立てることができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して、直感的に筆使いを理解することができる。
表記・表現	○情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとした表記になっており、特別に支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくい。 ○3年生以上の毛筆のお手本には、どこに気を付けて書いたらいいのかがわかるように、隣にポイントが表記されている。
総 括	○各学年でSDGsを扱った項目があり、環境問題への喚起などにも触れている。 ○主体的に、見通しをもって書写の学習に取り組めるよう、巻頭及び全教材に「学習の進め方」を設けている。 ○教科書に穴埋めできるような形式になっている。 ○東日本大震災の新聞や、著名人の手書き文字など、児童の興味関心を引く内容を多く扱っている。

社会科（社会）調査資料

書名 項目	『新しい社会』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	<知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習内容を確実に習得できるように、学習上重要な語句を「ことば」として明示して、詳しく説明されている。 ○「まなび方コーナー」では、関係図の作り方、思考ツールの活用の仕方、見学・取材の仕方などの具体的な例示を通して、情報をまとめる技能などを習得できるようにしている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「まとめる」場面では、新聞・キャッチフレーズ・漫画のセリフなど様々な言語活動を重視して、知識の定着とともに多様な表現力を身に付けさせることができるようにしている。 ○「いかす」場面では、社会的な事柄に参画・提案できるように、自分たちでできることを考えたり、選択・判断したりすることができるようになっている。 ○「見方・考え方コーナー」では、キャラクターを用いながら、社会における諸問題を解決するために必要な見方・考え方を「空間」「時間」「関係」に分け、提示している。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○問題解決的な学習を行う構成となっており、「ひろげる」では「さらに調べてみたい事柄」を例示し、学習者自身が主体的に諸問題と向き合えるようになっている。 ○学習問題を立てるページには学習の計画の欄があり、調べる内容、調べ方、まとめ方が記載されていることで、見通しをもって学習を進めることができるように工夫されている。 <特記すべき教材や教科の特性> ○埼玉県に関する教材として、第4学年では「見沼代用水（さいたま市）」、第5学年では「関東内陸工業地域（川越市・狭山市）」、第6学年では「子育て支援の願いを実現する政治（さいたま市）（川口市の福祉事業）」「日本の経済や産業の発展に貢献（深谷市の渋沢栄一）」を取り上げている。 ○第6学年で、日本と関係の深い国として取り上げている国は、「アメリカ・中国・ブラジル・フランス」である。 ○第4学年の防災学習においては、風水害が主事例として取り上げられている。
資 料	<学習意欲を喚起するための工夫> ○QRコンテンツが充実しており、働く人へのインタビュー動画や単元の導入動画など、映像資料を活用した授業を組み立てやすくなっている。 ○「つかむ」場面で、予想や学習計画を立てる活動を重視し、見通しをもった学習の進め方ができるようになっている。「まとめる」場面では、小単元の学習問題を再提示し、学習問題に立ち返った考察が促されている。 ○ワイド版の紙面や折込ページなどを活用し、迫力あるイラストや写真を提示することで、子供の学習意欲を喚起している。 <学習効果を高めるための工夫> ○「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習の流れについて、それぞれの学習段階ごとに留意することや活動等を具体的に例示し、問題解決学習をわかりやすく進められるようにしている。 <レイアウトの工夫> ○ページごとに掲載されている資料は、「1, 2, 3・・・」とナンバリングされている。また、それらの資料を→でつなぎ、比較しやすいように工夫されている。 ○代表的な世界文化遺産および国宝を積極的に教材化し、わかりやすい国宝と世界遺産マークを設けている。
表記・表現	○児童にとって読みやすい専用教科書体と、視覚にうったえるゴシック体の文字をバランスよく使い分けるとともに、児童の発達段階に配慮した適切な文字を用いている。また、6学年の教科書が、「政治・国際編」と「歴史編」の分冊となっている。
総 括	○単元ごとに「つかむ」「調べる」「まとめる」（「いかす」）の授業段階が示されており、問題解決的な学習を通して、主体的で深い学びを実現させようとした構造となっている。また、資料の配置や分量が適切である。紙面の読み取りが苦手な児童にとっても、適切な量と、読み進める順番が理解しやすいように作られている。

社会科（社会）調査資料

書名 項目	『小学社会』 発行者番号 17 発行者名 教出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○本文における重要な語句は「キーワード」欄にまとめてある。「解説」欄において難易語句が詳しく解説されている。 ○「学びのてびき」では、「集める」「読み取る」「表す」という情報収集の仕方や資料の読み取りの仕方を、学習の流れに即して習得できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「まとめる」ページでは、リーフレット、白地図、思考ツール、キャッチコピー、文字カード、意見交換、表、関係図など多様な活動が例示されている。 ○社会的な見方・考え方として「時期や時間の変化」「場所や広がり」「くふうや関わり」「比べる」「関連づける」「総合する」の6つが示され、巻頭でわかりやすく解説されている。 ○対話的な学習・表現活動として、ICTを活用した方法や思考ツールを活用した表現方法などが多様に示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞
	○「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の問題解決的な学習を行う構成となっており、各時間で出てきた新たな問いを次時で追究することができるようになっている。 ○各時間の学習活動の例示がなされており、見通しをもって本時の学習を進めることができるようになっている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○埼玉県に関する教材として、第4学年では「見沼代用水と見沼新田の開発（さいたま市）」「秩父夜祭り（秩父市）」、第5学年では「首都圏外郭放水路（春日部市）」、第6学年では「さきたま史跡の博物館（行田市）」「稲荷山古墳出土の鉄剣（行田市）」「近代産業に尽力した渋沢栄一（深谷市）」を取り上げている。 ○日本と関係の深い国として取り上げている国は「アメリカ・中国・ブラジル・サウジアラビア」である。 ○「SDGs とつなげて考えよう」のページでは、学習をSDGsの視点から振り返り、将来の地域や社会、くらしの在り方について自分事として考えることができるようになっている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○これまで白黒写真であった資料が、カラー化した画像に差し替えられているものがある。 ○50cmの大判の資料・想像図が15か所あり、子供たちが意欲的に資料を読み取ることができるようになっている。 ○大単元末を中心に「もっと知りたい」ページが設定されているため、単元を学んでいく中で生まれた新たな疑問や課題について解決するための窓口となっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○動画、ワークシート、補助教材、クイズ式教材などの豊富なデジタルコンテンツを使用することで、必要な資料を効果的に活用することができるように工夫されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○見開きページの中に、中心的な写真資料が大きく配置され、数多くの資料が提示されている。資料に「ア、イ、ウ・・・」と記号が付けられ、思考が整理しやすいようになっている。 ○文化遺産を数多く取り上げていて、国宝、重要文化財、世界文化遺産にはマークを付けて紹介している。
表記・表現	○UD教科書体を使用し、フォントやポイントの違いにより、本文と資料、子供のノート例などを見分けやすくしている。該当学年以上の配当漢字や固有名詞、社会科用語等には、見開きごとに「ふりがな」が付され、一文が数行にわたる場合には読みやすい箇所で行改めされている。
総 括	○問題解決型学習の流れに沿った構成になっており、「この時間の問い」と「次につなげよう」が各時間に設定されることで、本時のページと次のページのつながりが明確に示され、児童の思考の流れをスムーズにしたり、児童が社会的事象の連続性を捉えたりすることができるように工夫されている。

社会科（社会）調査資料

書名 項目	『小 学 社 会』 発行者番号 116 発行者名 日 文
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○本文における重要な語句が太字になっており、その語句は「キーワード」欄において解説されている。さらに検索のアイコンで難易語句の解説がなされている。 ○「学び方・調べ方コーナー」では、白地図への記入の仕方、グラフの読み取り方、見学の仕方などの資料を活用し、問題解決を追究していくための技能が習得できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○学習問題を追究・解決していく手立てとなる「社会的な見方・考え方コーナー」が、①空間、②時間、③関係、の3つの視点で示されている。 ○「まとめる」場面では、子供同士が学習問題について発表し合う活動の様子がマンガ形式で例示されており、思考や学びを深めるための具体的な手立てとなっている。 ○児童の発展的な問題解決学習の教材として、「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」のページが特設されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各ページに「コラム」「やってみようコーナー」があり、児童の学びに向かう姿勢を高めることができるようになっている。 ○学習問題を立てるページには学習の計画の欄があり、調べる内容、調べ方などが記載されていることで、見通しをもって学習を進めることができるように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○埼玉県に関する教材として、第3学年では「市の様子とくらしのうつりかわり（川越市）」、第4学年では「荻野吟子（熊谷市）」、第6学年では「安心してくらし続けられるまちづくりに向けて（川口市）」「稲荷山古墳（行田市）」を取り上げている。 ○日本と関係の深い国として取り上げている国は「アメリカ・中国・ブラジル・韓国」である。 ○4年生の自然災害の学習では、風水害が主単元の事例として取り上げられているほか、地震・津波・火山・雪害まで網羅され、災害への対応と備えについて紹介されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○SDGsを通して、日本や世界で見られる諸課題への意識を高められるよう、「考えよう！SDGs」や「貼ってはがせるSDGsの目標シール」で楽しく取り組める工夫がされている。 ○現代的な諸課題について、地域の対応や取組を紹介し、子供が課題を自分事として捉え、よりよい未来をつくるために考えられるように工夫されている。 ○資料の周りに注釈が記されているものが多く、主体的な学びを支えている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「深め合い活動」が「学習問題の設定」や「さらに考えたい問題」の交流場面において示され、自分の考えを拡大、改善、確信することで深い学びにつなげられるよう工夫している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○ページ上部にメイン資料、見開き左右に補助資料、中央に本文、といったレイアウトが共通して採用されている。 ○読解しやすいように、本文を学習活動・学習内容・友達の発言の三つの役割ごとにわかりやすく示している。
表記・表現	○文字は、誰にでも見やすく読みやすい「ユニバーサルデザインフォント」を使用し、当該学年以上の配当漢字には、すべて振り仮名がついていて、児童の発達段階に応じた表記がされている。
総 括	○問題解決型の学習を支える単元構成になっているため、授業づくりの参考になったり、基礎的な基本的な知識を身に付けたりすることがしやすいように工夫されている。本文中や児童イラストの吹き出しにおいても、児童の思考や資料読み取りの意見が書かれており、問題解決学習を進める手がかりとなるように工夫されている。

社会科（地図）調査資料

書名 項目	『新編 新しい地図帳』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻頭で、地図帳の導入として基本（方位・地図記号・凡例・距離・索引・縮尺など）を丁寧に学べるように工夫されている。 ○日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子を捉えることができるように、年表と地図を同じページに記載している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○それぞれのページでキャラクターたちが、「○○してみよう」や「○○になっているね」といった、思考を整理するのに役立つ台詞を述べている。 ○防災教育への対応として、日本列島全体の自然災害地図が掲載されており、日本の自然災害について深く考えることができるように工夫されている。 ○国際理解教育として、世界の民族衣装や生活文化について掲載されており、国ごとの比較に役立たせることができるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○地図帳全体に、問いと作業の「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」が掲載されており、地図を見ながら取り組むクイズや作業が多くある。 ○児童の到達度を計ることができるように、二次元コードからアクセスできる「がんばりシート」がある。
資 料	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○外国語や家庭科、道徳などの教科で活用ができるように多様な主題図（国名や産物の英語表記、日本の伝統文化など）を掲載している。各地方の産業を分かりやすくイラスト入りで伝えてあり、地図帳で得た知識を他教科との学習に結び付けやすくなっている。 ○地域の産業や伝統文化に親しめるように、農産物や工業製品、伝統工芸品などが数多く掲載されているため、他教科との学習に繋がられるように工夫されている。 ・渋沢栄一記念館・深谷の農産物「ブロッコリー・ほうれん草・チューリップ・ねぎ・ゆり」
表 記	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○索引にはチェック欄が設けられていて、地図上で見つけた地名をチェックすることで、児童の地図帳の活用意欲を高められるように工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○日本と世界の山や川などが並べて掲載されており、比較が容易である。 ○京都や東京を中心に、様々な縮尺の地図が掲載されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○主題図には地形・気候・産業・伝統文化などの多様な地図が掲載されている。それぞれの主題図については、できる限りページ単位で区切り、見やすくなるように工夫されている。
表 記・表 現	○もくじ欄には、「広く見る地図」「地方別に見る地図」「詳しく見る地図」など、種類ごとにアイコンが決められている。 ○土地利用ごとに色分けがされている。（緑は田・畑、赤は果樹園、黄色は市街地など）
総 括	○学習意欲を高める工夫が随所にされている。また、どのように地図帳を読み取ったり、活用したりすればよいのかといった点も、丁寧に解説されているため、教師は授業づくりに役立てることができる。陸の高さや、海の深さといった地形の様子まで、詳細に色分けされている。

社会科（地図）調査資料

書名 項目	『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 発行者番号 46 発行者名 帝国
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻頭13ページに渡って「地図の約束」「地図帳の使い方」において、方位、地図記号、土地利用、縮尺と距離についてわかりやすく解説されている。 ○3年生向けの「トライ」が5箇所あり、全11問用意されている。「トライ」を解くことで、地図帳を活用できる知識や技能を身に付けられるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○3人のキャラクターたちが、それぞれのページで発問を投げかけており、児童は思考を整理することに役立たせることができるように工夫されている。 ○学校の周りの「防災マップ」の具体的な作り方が掲載されており、自らの身を守るために何ができるかを考えられるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「地図マスターへの道」が掲載され、児童の関心や資料活用能力を高める問題があり、児童が各自で目標をもって挑戦することができるようになっている。 ○地図帳全体がSDGsを学ぶ題材として活用できるように、アイコンが随所に設置されていたり、地球全体の課題として把握し、自分事として解決策を考えられるようにSDGsの特設ページが設けられたりしている。 ○アニメーションによる解説やクイズ、動画やVR画像など、資料活用や学習意欲を高めるQRコンテンツが収録されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○地域の産業や伝統文化に親しめるように、農産物や工業製品、伝統工芸品などが数多く掲載されているため、他教科との学習に繋げられるように工夫されている。 渋沢栄一生地・深谷の農産物「きゅうり・ねぎ・チューリップ・ユリ」・鉢形城跡 ○世界地図のページは、「ミラー図法」「ランベルト正積方位図法」の2つの図法で表記されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「地図で世界発見!」「地図で日本発見!」「広く見わたす地図」では、3年生の発達段階に合わせて要素が精選されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○歴史学習や、他教科でも活用できるように工夫されている。歴史学習では、歴史事象を地理的な空間の広がり結びつけることで、深く学習できるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○縮尺を正しく読み取らせるために、実際の距離を示した「ものさし」が掲載されているページがある。
表記・表現	○地名を正しく読めるように、全ての地名に振り仮名が記されている。 ○土地利用ごとに色分けがされている。（緑は田・畑、赤は果樹園、黄色は市街地など）
総 括	○高学年に向けたページでは、土地の高さによって色分けがされていたり、校外学習の際に使用しやすいように中心部を拡大したページが設けられたりしている。それぞれの学年、立場に視点を当てたページが用意され、目的によって様々な方法で利用することができる地図帳である。

算数科調査資料

書名 項目	『 新しい算数 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○コンパスの使い方やテープ図のかき方など、技能や理解を支援するための動画コンテンツが多数用意されており、繰り返し見て学習することができる。また、単元末の「学習のしあげ」の問題もQRコードを読み込んで取り組むことができ、正誤判定や解説機能が付いているため、授業で終わらなくても家庭学習等で補充することができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「同じように考えると」という吹き出しがあり、既習を生かして考えようとする態度や力を育むことができる。また、「それなら」という吹き出しでは、発展的に考え理解を深めたり、見方・考え方の価値を再確認したりと、より深く学ぶことができるようになっている。「今日の深い学び」では、不完全な考えが例示されており、完全なものにするための考察を児童に促し、思考力や表現力を高める設計になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○動画コンテンツの「オープニングムービー」は、単元導入に見せることで、児童の学習動機を創出することができる。巻頭コラム「私と算数」では、世界レベルで活躍する方々の算数との関わりを知ることにより、算数の身近さや有用性を味わい、意欲を高めることができる内容になっている。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○4年「簡単な場合についての割合」から割合の学習が始まるが、低学年から割合に関する学習を丁寧に積み上げられるように工夫されている。分数も、倍やわり算と関連づけて取り扱っているため、割合の素地を容易につくることができる。統計教育では、日常生活で目にするデータに対して批判的な考え方を養うために、「データにかくれた事実」にせまろう」が新設されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○各単元のプロローグでは、対話の視点を明示し、日常生活や生活体験を話題として学習意欲を高めたり、既習内容を整理し振り返ったりしながら、単元課題を創出する構成になっている。各種調査の結果を分析し、児童がつまづきやすい箇所では、教科書の展開を工夫したり、QRコンテンツでの扱いを強化したりしている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○1年①の教科書は、大判（A4判）でノート一体型の紙面になっており、入学当初の児童には学習しやすく、数字を書いたりものの個数を数えたりするなどの練習量も十分である。各学年の巻末には「ふりかえりコーナー」があり、学習に必要な既習内容が分かりやすくまとめられている。また、復習のページ「おぼえているかな？」に取り組むことで、過去の学習内容を想起することができ、記憶の長期定着に効果があると思われる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○全体的に落ち着いた雰囲気紙面であり、余白を生かしたレイアウトである。枠囲みの形や色にメリハリがあり、重要な箇所が分かりやすい。読みやすさを重視し、どの文章も読みやすい位置で改行されている。
表記・表現	○文字は「UD教科書体」で見やすく、デジタル教科書でも読みやすい配慮がされている。重要語句には、太字の使用に加え、マーカーを引いて強調することで、捉えやすくなっている。配色は、カラーUDの観点から、色覚の特性によらず視認できるように設計されており、図やグラフでは、色の区別だけでなく、形や模様でも区別できるように配慮されている。
総 括	○単元内の紙面構成を工夫として、単元前半では、吹き出しや補助発問等を丁寧に設定し、後半は吹き出し等を段階的に減少させ、身に付けた資質・能力を駆使して高められるように工夫されている。児童が考えることを重視し、丁寧さを継承しつつ、紙面のシンプル化も図っている。単元末の「学習のしあげ」は、単元のゴールを押さえることができ、学習の定着の確認及び授業づくりの際にも有効である。

算数科調査資料

書名 項目	『 たのしい算数 』 発行者番号 4 発行者名 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○第1学年の第1分冊を除き、全て学年1冊本になっており、既習事項の振り返りがしやすい。単元末の「たしかめ問題」では、「しっかりチェック」のコーナーや、番号に水色の印がついている問題があり、基礎・基本の確認ができるようになっている。同ページには「学んだことを生かそう」のコーナーで発展的な学習の問題もあり、習熟度に応じて学習できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○第2学年以上の各巻頭には「算数の大切な考え方」があり、さまざまな場面で使える見方・考え方が整理されている。各単元の中で「ひらめきアイテム」のマークが付されており、学習の中で参照しやすくなっている。また、各時間のまとめでは、考え方に焦点を当てたまとめになっている時間もある。単元末には「見方・考え方をたしかめよう」もあり、問題解決に用いた見方・考え方や、自分や他者の考えを表現する場面も設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各単元の中で、キャラクター等がこれまでの学習を振り返って新たな問いを見いだしていく様子が例示され、児童が主体的に学べるよう工夫されている。「おうちで算数」「ふくろう先生のなるほど算数教室」では、SDGsやキャリア教育インタビュー、身の回りで使われている算数を扱っている。世の中と算数とのつながり、他教科との関連や算数のよさを実感し、生かしていこうとする態度を育てる工夫がなされている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○各学年、「プログラミングに挑戦」の時間があり、特に第2学年以上では、コンピュータを使わない「アンプラグドプログラミング」と、コンピュータを使う「ビジュアルプログラミング」の両方が扱われている。プログラミング的思考を働かせながら、数学的活動を進められるようにしている。同ページ内に、学習したプログラミング的思考と同じ考え方が使われている身の回りの例（家電製品など）を紹介している。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○数学的な見方・考え方を「ひらめきアイテム」として巻頭にまとめて示し、後の学習でも活用しやすくしている。第2～4学年では、学習の進捗に合わせて巻末のシールを貼るようになっており、アイテムが増えていくようになっている。第5・6学年では書き込み形式でアイテムを完成させていくようになっており、意欲を高める工夫となっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○各学年ともウェブコンテンツが数多く用意されている。シミュレーションのデジタルコンテンツも豊富で、児童が操作し、試行錯誤しながら考えられるように配慮されている。QRコードで答えを確かめられる問題もあり、自分で学習を進められるようになっている。「おうちで算数」には、保護者向けのサポートページもあり、家庭学習の充実を図っている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○「じっくり深く学び合おう」の時間では、1時間の学習過程が複数ページにわたって示され、児童の話し合いや数学的活動の様子が詳しく例示されている。また、「問題解決の段階を表すタグ」も示され、児童にとって「今何をしているか」がわかりやすくなっている。
表記・表現	○各巻の目次で、既習事項とのつながり、今後の学習とのつながりが明示され、学年間のつながりや系統性がわかりやすい。「領域別単元カラー」も設定されており、全ての単元が色分けされており、領域のつながりを意識しやすい。 ○他教科との関連がある部分には、「リンクマーク」と教科名が付されている。
総 括	○児童が考える楽しさを味わい、主体的・対話的で深い学びを実現するため、具体的に丁寧な紙面構成になっているとともに、巻頭に数学的な見方・考え方を示し、思考力、判断力、表現力等を伸ばすことができるような工夫されている。単元末の「たしかめ問題」は知識・技能の確実な定着を目指す工夫がされている。

算数科調査資料

書名 項目	『みんなと学ぶ 小学校 算数 』 発行者番号 11 発行者名 学 図
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○児童がつまずきやすい内容について「算数パトロール隊」のページを設け、つまずきやすいのがどこか、どのようにするとつまずきにくくなるかを課題形式で掲載している。（2～6年生）3年生以上では、「倍」の概念を学習する内容を、通常の単元とは別に特別単元として位置付け、整数、小数、分数のかけ算やわり算の学習のあとに、重点的に学習できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題解決にあたって、児童が図や表などをよりよく活用できるように「図や表を使って問題を考えよう」というページが設けられている。筆算の学習に入る前に計算の仕方考える内容を独立した単元としている。既習の計算の仕方や計算のきまりを使って、児童が自由な発想で新たな計算の仕方を考えられるようにしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○導入では、児童に身近な話題から問題を発見し、算数の課題としてつなげられるように「？を発見」のページが設定されている。イラスト形式の読み物になっていることで、児童にとってより身近な話題として学習に入っていけるようになっている。単元を通して、さまざまな疑問が解決できたとき、「こんな場合はどうかな」「条件を変えたらどうなるのかな」と学びを深める新たな疑問がもてるように「？をかいけつ!」「つなげたいな」が設けられている。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「算数をつかって」では、SDGsのどの目標について考えるのかわかるように、マークを示して、さまざまな目標に対して問題意識をもちながら学びを進めていけるようになっている。また、各課題において、パフォーマンス評価の形で自己評価ができるように設定されている。6年生には、6年間の算数で学んできたことを振り返ることができる別冊がある。後半には、「中学校へのかけ橋」として、中学校の内容に触れることができる。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○算数の学びに重要だと考えられる9つの「見方・考え方」を9体の「考え方モンスター」として表している。キャラクター化することで、楽しみながら9つの考え方を使いやすくなる。折り込み形式なので、教科書を開きながら、常に「考え方モンスター」を確認することができるようになっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○6学年で合計して610カ所のQRコンテンツがある。図のかき方や計算の仕方を動画で見たり、資料のあるインターネットサイトに繋がったりすることで、学びを深めることができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○教科書の版型にAB版を採用することで紙面が整理され見やすくなっている。1単位時間の初めに、この時間にどんなことを学ぶか見通しがもてるように、左側のライン横に小タイトルを示している。また、左側のラインで1単位時間の目安がわかるようになっている。
表記・表現	○文章を読む段階でつまずきを減らすために、本文などにはUDフォントを使い、文節で改行をしている。 ○各時の問題は番号が付けられ、太文字と囲みで強調されている。また、「めあて」と「まとめ」は、左側のライン横にマークがあり、文は、太文字で強調されている。
総 括	○生活や学習の中から問題や疑問を自分たちで発見し、学んだ知識・技能を確認・活用する中で、新たに問いを提示していくなど、児童に寄り添った展開が工夫され、学びの連続性を感じながら主体的・対話的に学習を進められる構成になっている。また、児童の問いが次の学びにつながる場面では、問いを吹き出しの形で示し、次の学びへの関心・意欲を高めるように工夫されている。

算数科調査資料

書名 項目	『 小学算数 』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○「まとめアニメーション」で文字だけでなく視覚的にも理解が深められる。巻末の「学びのマップ」は、学年を超えて既習事項を振り返られるようになっており、わからない箇所があるときや関連する内容を振り返りたいときにいつでも参照でき、基礎・基本が定着する。各学力調査で課題がみられる内容には「考えるヒント」を設け、つまづきやすいポイントを意識化できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元末の「4コマ漫画」で単元を中心となる数学的な見方・考え方を楽しく振り返れるようになっている。また、単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方を「つながるミカタ」で顕在化し、後半の学習でもう一度活用することで、学びの深まりを実感できるようにしている。さらに「つながるミカタプラス」では、数学的な見方・考え方を領域を超えてつなぎ、算数のコツをつかめるようにしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○問題発見・解決の過程を「はてな？→なるほど！→だったら！？」によって、児童の問いが自然なかたちで生まれるように工夫されている。また、単元導入では、身近な題材から算数の問題を発見し、単元末の「学んだことを使おう」では、学習したことを日常場面に活用し、「何ができるようになったか」を実感できるように設計されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○テープ図と数直線の見方・かき方、演算決定のときの活用の仕方を学習し、思考・表現の道具として定着するように、3年上に「かけ算とわり算の図」という小単元が設けられている。授業開きの特設教材「算数がすきになるはじめての一步」は、問題解決の楽しさを味わいながら、学習の進め方や学ぶ態度を学級で共有し、学習意欲を喚起する教材になっている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○表紙動画のアニメーションは、算数と出会い、算数の楽しさを味わうことができるデジタルコンテンツとなっている。また、単元間に特設されている「算数ワールド」は、児童たちの興味・関心を高める内容、算数のよさを味わったり、数学的な見方・考え方を発揮したりする内容となっており、児童たちの学習意欲を喚起するものである。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○巻末に、家庭学習や習熟度に応じた学習に使える練習問題「ステップアップ算数」が設けられており、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」のレベル別の問題で構成されているため、児童一人一人の学力を伸ばしたり、繰り返し取り組むことで学習習慣の確立を図ったりすることが期待できる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○全体的に落ち着いた雰囲気のある紙面であり、余白を生かしたレイアウトである。読みやすさを重視し、どの文章も読みやすい位置で改行されている。また、知識を広げるコラム「もっとやってみよう」「算数ひろば」「よくあるまちがい」が随所に設けられ、学習を広げたり、実生活との関わりに触れたりすることができる。
表記・表現	○文字は「UD デジタル教科書体」を採用し、紙面でもデジタル画面でも見やすいように工夫されている。図やグラフは、色覚の個人差を問わず、識別しやすい配色を用いており、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。算数用語については、正確かつ簡潔な表現で定義されており、重要語句は赤字で強調されている。
総 括	○見いだした数学的な見方・考え方を顕在化して単元末で活用するとともに、巻末「学びのマップ」で、学年を超えて既習事項を振り返ることができるようにするなど、学びのつながり・深まりを実感できる構成になっている。また、児童の問いを重視し、「はてな？→なるほど！→だったら！？」で学びを進め、問題発見力・問題解決力・問題追究力を育てるよう構成されている。

算数科調査資料

書名 項目	『 わくわく 算数 』 発行者番号 61 発行者名 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○各単元のはじめに取り組むことができるよう、「じゅんぴ」が設定されている。既習事項を確認してから新しい単元の学習を始めることで、新たな知識・技能が習得しやすいよう考慮されている。また、計算等、習熟が必要な単元では、単元の途中で「練習」のページが設けられている。各単元末には「たしかめよう」、巻末には「もっと練習」が設けられており、豊富な問題数と種類で知識・技能の定着を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各巻頭「考えの進め方」において、今まで使ってきた数学的な見方・考え方が整理されており、新しい学習でも生かせるようにしている。各単元とも、キャラクター同士が話し合う様子を通して、児童が思考を進める助けとなっている。また、単元の中に「図のかき方」が位置付けられており、児童が自分で図をかいて問題解決できるようになるよう、工夫されている。特に、数量の関係を表すための「関係図」を第3学年から一貫して扱っている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○児童の問いから学習が始まるように構成されており、単元末には「ふりかえろう」「やってみよう」が1ページにレイアウトされている。児童が、学んだことを生かして次の学びに進む態度を身に付けられるよう工夫されている。また、「学びをいかそう」では、日常生活の中にある問題について、既習の単元の学習内容を生かして解決できるように構成されており、算数のよさを感じて進んで学ぶことができるよう工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○児童のつまずきが多い「割合」について、第2学年「何ばいとかけ算」から系統的に構成されている。第2学年から基準量を意識できるようにし、第3・4学年で基準量の何倍かという見方・考え方を働かせられるようにし、第5学年の割合の単元につなげている。第6学年でも「割合を表す分数」「全体を1とし、割合を考えて」を設定し、中学校に向けて継続して理解を深められるようにしている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○児童が興味・関心をもって単元の学習を始められるよう、身の回りのものや既習事項から始められるようにしている。関連するデジタルコンテンツも用意されている。第2学年以上には、夏休み前に「算数の自由研究」のページがあり、既習事項を活用したり探究したりする活動を促している。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QRコードが各所に付されており、関連するページやデジタルコンテンツにすぐ移動できる。誤答例を扱った「よくあるまちがい」のコンテンツも各学年に用意されている。巻末には、厚紙でできた「切り取り用教具」があり、児童が操作しやすいよう工夫されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○5・6年生は合冊構成になっており、1年間の学びを見通したり振り返ったりしやすくなっている。各単元や小単元の始まりは、児童からの問いが右ページにレイアウトされており、次のページを開くと、その問いについての考えや授業展開が見えるようになっている。
表記・表現	○1時間ごとの「めあて」や「まとめ」がわかりやすいよう、一貫したマークや色づかい、囲み等で強調されている。加えて、数学的な見方・考え方に関わる部分は、キャラクターの吹き出しの中で示され、さらにハイライトで強調されている。 ○登場人物やキャラクターが、多様性に配慮したものになっている。
総 括	○価値付けたい数学的な見方・考え方を強調したり、学び合いで深めたい点を可視化したりするとともに、学びのつながりを重視することで、数学的な見方・考え方を軸とした「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりができるように工夫している。既習事項を確認して新しい学習へと向かうスパイラルの構成で学びやすくし、確かな理解の定着が図れるように「練習」「復習」のコーナーを設け工夫している。

算数科調査資料

書名 項目	『 小学算数 』 発行者番号 116 発行者名 日 文
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○新しい単元に入る前にこれから学習する内容に関わる既習事項を確かめる「次の学習のために」が設けられている。次の単元に関わる既習事項を押さえることで新しい学習にスムーズに入ることができる。巻末の「算数マイトライ」では、基本的な問題・応用発展的な問題・探究的な問題の3つで構成され、児童の実態に応じて柔軟に取り扱うことができる。3年生以降に「倍」と「割合」に特化した単元が設けられている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「めあて」の近くには、見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりするための着眼点を「見方・考え方」として配置してある。ただ答えを求めるだけでなく、数学的な見方・考え方を働かせることにつなげることができる。「自分で みんなで」というページには、問題解決型の学習過程を「学び方の4ステップ」として丁寧に示されている。自分で表現し、他者と協働して取り組むイメージをもつことができる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○全時間に「めあて」と「まとめ」を設けてあることで、学習内容が焦点化され、学習の流れがよりわかりやすくなっている。日常生活で算数を生かす視点がもてるように、他教科との関連を意識した題材が多く取り上げられている。米の供給や節水、海岸のゴミなど身近なSDGsの課題と算数を結び付けることで、SDGsについて児童と一緒に考えていける工夫がされている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○5、6年の教科書は、既習事項を振り返りやすく、1年間を見通した学習ができるように1年間1冊の合本構成になっている。「学び方ガイド」「算数ノートをつくろう」「自分で みんなで」では、振り返りを促している。また、単元の終わりには、単元全体の振り返りを設けることで「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「使ってみよう」では、数学的活動が具体的にイメージできるように写真や準備するものが示しており、学習したことを生活の場面に生かし、算数の楽しさや意義が実感できるようになっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○教科書のどこを学習しているかがひと目でわかるようにスピン（しおりのひも）がついている。デジタルコンテンツが豊富で、計算の学習では、繰り返し練習できるように、すべての練習問題に「計算の型」に対応したドリルが用意してある。上巻巻末に「算数で使いたい見方・考え方」の一覧があり、いつでも確認できるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○図形に使う色はクリーム色で統一され、グラフや表の色は見分けやすい色で、目にやさしい色遣いになっている。ページの右上に「単元名」があり、何を学習しているかが、ひと目でわかるようになっている。ページが書かれているところも領域ごとで色が分かれている。
表記・表現	○問題文や「めあて」「まとめ」などの重要項目は、下線や囲み線でわかりやすく示している。「定義」と「まとめ」は区別がしやすいようにデザインを変えている。 ○視認性の高いUDフォントを使い、本文には色文字を使わないようにしている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出し等で表している。
総 括	○ページの側注に学習のステップを示したり、巻末の「学び方ガイド」によって算数の学び方を示したり、筋道立てて考えるための着眼点になる「見方・考え方」を配置したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現につながる構成になっている。また、単元末に「学習をたしかに」を設け、児童のつまずきや数学的な見方・考え方の成長を意識した構成になっている。

理科調査資料

書名 項目	『 新しい理科 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○実験・観察のページには、動画資料やデジタルワークシートを見ることができるQRコードが随所に掲載されており、コンピュータを使って利用する資料が充実している。 ○単元末の問題では、「ふりかえろう」→「たしかめよう」→「考えよう」に取り組むことで知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。わからなくなった場合にどのページに戻ればよいか書かれており、家庭学習にも生かせる工夫がされている。 ○実験から導き出されることについて「まとめ」という形でわかりやすく記述するとともに、用語などについても一緒に記載している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題解決の力を重点的に育成する場面を「のぼそう！理科の力」のマークで示され、児童がじっくり考え、力を伸ばすことができるよう工夫されている。 ○「考えよう」では、キャラクターが考える視点を示しており、予想や考察がしやすいよう工夫されている。 ○単元のまとめからさらに発想を広げて考えることができるよう、ところどころで「広げよう！理科の発想」といった形で、自分で考える場面を用意している。
	＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「学ぶ前に」「学んだ後に」では、同じ問いかけについて考えることで、全ての児童が自分なりの成長を実感できるように工夫されている。 ○単元末の「こんなところにも！理科の世界探検部」で学習が生活のどの場面で活用されているか紹介されており、理科を学ぶことの有用性を感じさせる工夫がされている。 ○キャリア教育、SDGs等と学習内容とを関連付けているコラムが単元末にある。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○教科書とデジタルコンテンツが関連付けられているため、学び方の幅が大きくなる。 ○QRコードで考えたことや調べたことを記録するための理科ノートをダウンロードすることができる。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○単元の最初には大きな写真と大きな文字で疑問に思っていることを明記し、学習意欲を喚起するようなつくりとなっている。 ○単元の導入に、最初の問題をつかむための活動（レッツトライ！）が設定されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「思い出そう」では、理科や他教科で学んだこと、生活経験などを思い出し、新規に学習する単元で活用できるよう工夫されている。 ○観察や実験では、「用意するもの」にチェック欄が設置されており、円滑に準備ができるよう工夫されている。 ○単元末には単元全体で学習したことをノート形式でまとめてある「ふりかえろう」と単元に関する復習問題を配置するとともに、発展的な問題についても提示している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○QRコードが吹き出しで示されているので、どのタイミングでデジタルコンテンツを利用したらよいのかわかりやすくなっている。 ○前の時間の学習がそのまま次の学習の問題につながる場面では矢印で前時のまとめと次時の問題をつなぎ、継続して思考できるよう工夫している。
表記・表現	○アイコンや学習過程、問題、まとめなどが大きな文字で表記されており、問題解決の流れに沿って児童が円滑に学習できるように工夫されている。 ○全体的に原色に近い濃い色合いが多用されており、文字の大きさも大きいものが多い。特に見出しについては色と文字の大きさに目立つようにしてある。
総 括	○問題解決型の学習が円滑に進められるように、学習過程が明確となるよう記述やレイアウトが工夫されている教科書である。 ○きれいな写真や豊富なデジタルコンテンツなどをA4判の大きな教科書に配置しており、児童の興味関心を高めることができる教科書である。

理科調査資料

書名 項目	『 たのしい理科 』 発行者番号 4 発行者名 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○実験から導き出される結論を問題と対になるような形でしっかりと明記するとともに、簡単な言葉でまとめを行い、知識の定着を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「問題を見つけよう」や「考えよう」などの思考する場面では、「ココに注目」がキャラクターと共に掲載され、見方・考え方が身に付くよう工夫されている。 ○予想の後、「計画を立てよう」が設けられており、自分の予想を確かめるためにどのようなことを調べればよいのか考えることで、思考力等の育成を図る工夫がされている。 ○興味関心に従って一步進んだ実験や観察を行う「深めよう」という場面をいくつかの単元で用意して、さらに深めて考えることができるようにしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○巻末の「理科の学びに役立てよう」は、当該学年の理科を学ぶ上で必要な知識、技能だけではなく、書き方、調べ方、他教科とのつながりなどがまとめられており、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○「問題を見つけよう」では見開きで写真を掲載し、そこから気付いたことや先行体験を補う体験を行って問題を見だし、単元の見通しをもって活動することにより、学習に向かう意欲を向上させることができる。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○ものづくりの「作ってみよう」では、作り方が詳しく書かれているだけではなく、解説動画もQRコードから視聴できるよう工夫されている。 ○デジタルコンテンツの中に、地域別の資料をまとめた自然観察スポット集が含まれている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「りかのたまてばこ」では、SDGsや仕事、環境、防災等に関連した記事が掲載されており、理科と日常生活や実社会との関わりについて興味関心が高まるよう工夫されている。 ○いくつかの単元では、問題解決の各過程で活動のヒントとなるコツが示されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○単元末の「たしかめよう」と「学んだことを生かそう」という2段階で、知識、技能だけではなく、思考力、判断力、表現力についてももしっかり身に付けられるよう工夫されている。 ○単元で学んだことを使って解くことができる問題を「たしかめよう」として単元末に配置している。 ○「たしかめよう」では、単に知識を問う問題だけでなく、文章で説明させるような問題も多く扱っている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○問題解決の過程において、「見つけよう」は紙面の背面が緑色、「調べよう」は橙色、「つたえよう」は青色で統一され、児童が今、どの段階を学習しているのかが感覚的にわかるよう工夫されている。
表記・表現	○問題解決の過程を「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」と大きく示し、色分けもして視覚的に伝わりやすくなっている。 ○問題や実験などの見出しに大きい文字を使用するとともに、本文については小さめの文字だが、はっきりした文字を使用して読みやすくしてある。
総 括	○適度な大きさの文字と、落ち着いた色、レイアウトの工夫やアイコンにより、問題解決の過程がわかりやすく示されている。実験の方法も大きく示されており、児童にとってわかりやすいつくりの教科書である。 ○A4判の大きな紙面を生かして、大きな写真などを配置し、興味関心を高めるとともに、文字の間隔をあけ、余裕をもったつくりとなっている教科書である。

理科調査資料

書名 項目	『 みんなと学ぶ小学校理科 』 発行者番号 11 発行者名 学 図
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○何を学んだのかを明確にし、知識の確実な習得を図るため、学習後や単元末などで振り返りの習慣化ができるような工夫がされている。 ○技能の確実な習得を図るため、実験方法や実験器具の使い方には、細かくチェックすることができるような工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○実験や観察で得られた知識や技能を、生かせるような発展的な学習活動やものづくりに取り組むことができるよう工夫されている。 ○考察では、児童の視点に立った多様な意見が示されており、児童が実験結果から多面的に考察しやすくなるような工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○児童自ら主体的に問題を解決したくなるような導入の工夫がされている。発達段階に合わせた表現で、主体的に問題について話し合えるように工夫されている。 ○自然と学習意欲が高まるよう、キャラクターと共に問題を解決したり、理科の世界を冒険したりする感覚で学習が進められるよう工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○学んだことを次の学びにつなげて生かすことができるよう工夫されている。1つの単元で完結するのではなく、既習を想起し、生かすことができるような記述も見られる。 ○「できるようにになりたい」「できるようになった」では、その単元において、特に重点的に身に付けたい資質・能力がキャラクターと共に掲載されており、効率的に理科の見方・考え方を使って学習できるよう工夫されている。 ○QRコードが各ページに掲載されており、家庭学習や個別学習に利用できるよう工夫されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「理科モンスター」が登場し、それぞれのモンスターの特徴が学習過程にあてられているので、児童が楽しみながら学習を進めることができる。 ○チェック欄が設けられているため、学習過程において、常に児童が自己評価が行えるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○適切にQRコードが掲載され、補足資料や動画資料等がタブレット上で確認することができるよう工夫されている。 ○本書自体がワークシートのように書きこめるようになっており、教科書の内容を確認しながら学習に取り組めるよう工夫されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○単元の導入ページでは縁なし印刷がされており、写真に迫力があり、どのような学習をするのか一目でわかる工夫がされている。 ○「問題」「わかったこと」の学習過程を示す文字サイズが大きく、青色で統一されているため、問いと答えが視覚的にも対応するよう工夫されている。 ○教科書の縦の長さがB5サイズだが、全体的に小さめの文字を使用してA4サイズと同程度の情報量を確保している。
表記・表現	○登場するキャラクターの発言は、児童の発達段階に合わせて、親しみやすい言葉遣いで表記されている。 ○用語はゴシック体の太字が使用されている。
総 括	○本書は、児童が主体的に学ぶことができるよう、「理科の世界をキャラクターと一緒に冒険する」といった親しみやすいテーマで書かれている。 ○それぞれの学習過程で、自己評価や進捗確認ができるようチェック欄等が設けられているので、一つ一つ確認しながら学習を進めることができるようになっている。 ○身に付けたい資質・能力を単元毎に示し、理科の見方・考え方を使いながら学習を進めることができるようになっている。

理科調査資料

書名 項目	『未来をひらく小学理科』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○単元末の「振り返ろう」では、単元の学習内容のまとめと、新しく学習した言葉をまとめて掲載しており、知識や技能の定着が図れるよう工夫されている。 ○実験から導き出される結論を問題と対になるような形でしっかりと明記するとともに、文章でしっかりとまとめ、知識の定着を図っている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○教科書の初めに「国語科の学習を生かして」があり、学年ごとに大切にしたい言葉や表現を押さえている。 ○実験結果から考察する場面で、キャラクターによる会話がヒントとなるようにしてあり、さらに「考え方のカギ」と明記してわかりやすく示している。また、場面によっては教師のキャラクターを登場させて補足し、考えやすいよう工夫している。 ○学習したことを身の回りの生活などに当てはめて考えさせる場面「学びを広げよう」を随所に配置し、学習したことを使って考えることができるようにしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「見つけよう」から単元を始めることにより、与えられた問題ではなく、体験したこと、資料から見つけたことから自分なりの問題を見だし、学習に取り組むようになっており、児童の主体的に学習に取り組む態度を育むよう工夫されている。 ○学習前の主人公と学習後の主人公が同じ疑問を発することで、児童自身が学習の前後で「何がわかったのか」など、成長を実感できるよう工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○デジタルコンテンツにつながるQRコードについては、必要な場面に絞って記載しており、児童が実体験に集中できるよう工夫されている。 ○単元の最初に「学習のつながり」として小・中学校での関連する学習を明記し、学習が系統的に進んでいることを意識できるようにしている。 ○理科における見方・考え方が児童に対しても分かるよう、「考え方のカギ」、「見方のカギ」のアイコンで表記されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○学習に関係のある資料を「資料」、身の回りのものと関係がある資料を「科学のまど」と表示して図や写真と共に随所に掲載し、学習意欲を高めている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「学習のつながり」では、前学年でどんなことを学習したのか、今回学んだことが今後どのようにつながっていくかといった学習の系統がわかるよう工夫がされている。 ○「思い出そう」で既習の内容の振り返りができるようになっていたり、「はってん」に関連した学習を今後、いつ学習するのかを明記したりしている。 ○単元の終わりに重要な部分をまとめた「ふり返ろう」と単元に関する問題「たしかめよう」を配置し、学習の定着を図っている。また「たしかめよう」ではキーワードを示した上で、文章で説明させる問題も提示し、表現力を育成できるよう工夫している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○問題解決の流れと実験の手順をそれぞれ別の種類・色の矢印で示し、実験が問題解決の一つの手段であることを意識できるよう工夫している。
表記・表現	○新出用語は太字と黄色ラインで強調されて表記されている。また全体的に大きくはっきりしたフォントで表記されている。 ○安全に対する配慮が必要な場面には、危険マークと注意すべき説明を赤字で記載している。赤字が目立つレイアウトとなっており、注意事項が視覚的に捉えやすい。
総 括	○見やすい文字や色、レイアウトの工夫などにより問題解決の過程が分かりやすく示されている。また、QRコードを適度に配置するなど、デジタルコンテンツを適切な場面で使用できるよう工夫されており、授業の中で使いやすい教科書である。 ○「見方のカギ」「考え方のカギ」を示していたり、学習の系統性を意識させたり、教科書を通して理科の見方・考え方が身に付くよう工夫された教科書である。

理科調査資料

書名 項目	『 楽しい理科 』 発行者番号 26 発行者名 信 教
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○観察・実験の結果の考察等を言語化して表現するための「学習カード」を利用することで知識・技能の定着が図れるように工夫されている。 ○単元末に「ふりかえろう」を設定し、児童自身の言葉、図などで学習をふり返ることができるように工夫されている。 ○単元で学習した内容についての問題について「たしかめよう」のQRコードから取り組み、基礎的・基本的な事項の定着を図れるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○単元の導入のページに「見つけよう」を設定し、話し合い活動や体験活動をとおして気付きや疑問をもち問題解決的な学習につなげられるように工夫されている。 ○「理科の学習の進め方」では、見通しをもって観察・実験ができるように問題解決の過程を図に表して記載されている。検証すべきことや実証点がわかりやすく示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○写真や絵図、レイアウトの工夫などにより、観察・実験の手順や方法がよく分かるように配慮されている。 ○これから学習する単元に関連する既習事項がある場合は、「思い出そう」のマークを示し、関連する学年、学習事項等が示されている。 ○気付きや疑問、考えのヒントを吹き出しで示し、児童が主体的に問題解決できるように工夫されている。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○児童が直接体験したり観察したりすることができない、学習の参考になる動画資料がQRコードで用意されている。 ○「やってみよう」を設定し、同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○単元の最初に見開きの写真や絵図を配置し、学習の概要をリード文で示すことで、児童が見通しをもって問題解決に取り組むことができるように工夫している。 ○自然の事物・現象、観察・実験の装置や児童の手元を拡大した写真を掲載することで、目的を明確に伝えることができるように工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。 ○「しらべてみよう」を設定し、児童にとって身近で興味・関心のある事物・現象を取り上げ日常生活への応用や科学的な見方・考え方が高められるように工夫している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○見開きページでは、連続した表現となるような構成が取り入れられ、児童の意欲が持続的に高められるように工夫されている。 ○教科書のサイズをAB版とし、紙面にゆとりをもたせて見やすいように工夫している。
表記・表現	○初出の理科的用語はゴシック体、それ以外の場合はUD 書体とし、字形を判別しやすく読み間違えにくいように工夫されている。 ○当該学年の配当漢字には、単元初出に振り仮名を付けている。
総 括	○問題解決型の学習が進められるように、学習過程が明確となる記述やレイアウトが工夫されている。 ○QRコードから利用できるデジタルコンテンツが複数用意され、児童の見方・考え方を高める工夫がされている。

理科調査資料

書名 項目	『わくわく理科』 発行者番号 61 発行者名 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○実験から導き出されることについて「まとめ」という形で分かりやすく記述するとともに、用語などについては「まとめ」の枠以外に記述している。 ○単元の終わりに、「まとめノート」「たしかめよう」「活用しよう」があり、知識の習得を図るとともに、身に付けた知識を活用してどんなことができるかを考えさせる工夫がされている。 ○単元の終わりに「スマート解説」で問題の解説動画を視聴できるので、理解を深めることができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○理科の見方、考え方につながることにマーカーが引かれており、どんなことを意識して学習していけばいいかが明確になっている。 ○学習後に「もっと知りたい」という場面を設け、次の時間の問題につながるよう考えさせる場面をところどころで取り上げている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元初めの「問題をつかもう」で児童自ら問題を見出させることにより、単元の見通しをもって取り組めるように工夫されている。 ○「くらしにリンク」で学んだことと生活との関連、他教科との関連を意識させる工夫がされている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○教科横断的な学び、SDGsに関連した教材が豊富で、理科と他分野とのつながりがわかりやすくまとめられている。 ○理科以外の他分野と関連した教材を多く配置することにより、理科が果たす役割等を幅広く学習でき、理科教育の必要性を実感できるよう工夫されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○導入ページには、必要に応じて関連する漫画が掲載されており、意欲をもって学習がスタートできるよう工夫されている。 ○「理科の広場」の情報が充実している。ところどころで3分の1ページほどの大きさを使って、単元で学んだことがどのような事例と結び付いているのかを紹介し、興味関心を高めている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QRコードで読み込む形の参考資料のコンテンツが豊富で、授業中はもちろん家庭学習でも授業で学んだことを効果的に復習ができる。 ○コンピュータを使って問題に回答する「WaCBT」というページを設定し、コンピュータを利用した学力調査の練習ができるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○わかりやすく、目立つマークを使用して、実験の際に気を付けることが一目でわかるよう工夫している。 ○前時と本時をつなぐ「もっと知りたい」という表記と矢印を配置して、学習の連続性を考慮したつくりとなっている。
表記・表現	○全体を青い色で統一するとともに比較的小さい文字、薄い文字などを使って構成している。 ○問題については太い文字、まとめについては濃い色の文字を使用して分かりやすいよう工夫している。
総 括	○シンプルなレイアウトや控えめなキャラクター、小さな文字で作られており、落ち着いて学習に向かうことができるよう工夫された教科書である。 ○教科書自体の大きさが小さく、持ち運びの負担が少ない教科書である。 ○理科と日常生活や実社会、他教科等との関連情報が多く、理科を学ぶ有用性や必要性が十分実感できる教科書である。

生活科調査資料

書名 項目	『 新編 新しい 生活 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○生活上必要な習慣や技能を身に付け、活動を広げたり、深めたりできるように、「やくそく」や「ずかん」「かつどうべんりてちょう」が配置されている。 ○子供の吹き出しに、知識及び技能の基礎になる言葉が書かれている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○表現、交流する姿が、挿絵、吹き出し、作品等に示され、気付いたことを基に考えたり表現したりできるよう工夫がされている。観察カードの書き方が細かく提示されている。 ○対象に直接働きかけ、児童の学びを深める活動例が示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○学びのプロセスが具体的に提示され、「見方・考え方」を生かしている姿を学習活動や思考に沿って例示されている。 ○児童の「やってみたい」を喚起する質の高い写真が掲載され、生き生きとした活動を支えている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○具体的な活動や体験への意欲を引き出せるよう、活動場面がダイナミックで表情豊かな写真や挿絵、吹き出しで表現されている。 ○スタートカリキュラムが示され、生活科を学習活動の中心に編成し、どの学校でも円滑に行えるようになっている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も提示され自立の基礎を養えるようになっている。 ○季節を変えて同じ挿絵を繰り返し使用することで、気付きの質を高めることができるようになっている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○ダイナミックな写真が使用され、思いや願いを膨らませることができる。 ○体験と表現の往還により「気付きの質」が高められるように振り返り・表現活動が充実されている。イラストや多様な表現方法により活動のイメージがつかみやすい。 ○活動の手助けとなる「〇〇ずかん」が示され、児童が自らの考えを生かし、主体的に活用できるよう工夫されている。 ○植物の育ちへの興味を喚起し、成長や変化への気付きを自覚できるよう、段々と紙面が広がる構成になっていて、知的好奇心を刺激するよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○他教科との関連的な指導が図れるよう、関連教科が示されている。 ○児童の活動が広がるように「かつどうべんりてちょう」や「ほんとうのおおきさいきものずかん」が提示され、「見付ける、比べる、たとえる、ためす、見通す、工夫する」の活動に即した資料で3年生以降の学習にも役立てようになっている。 ○豊富なQRコンテンツが示され、児童の「もっと知りたい」に応え、個別学びの実現を可能にしている。 ○GIGAスクール構想に対応し、ICT機器の活用場面が具体化され、児童の学びを可視化し、気付きの質の高まりを促せるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○注目させたい場所に目が向けられるよう、写真や挿し絵が工夫されている。 ○「まなびをふかめる」により、児童の思いや願いを大切にしながら、気付きの質が高まるように工夫されている。
表記・表現	○ページの初めに配置された本文に活動のめあて、その下に主な評価規準を示すマーク（！？▽）で表し、構造化されている。 ○キャラクターや吹き出しによって、思考を促すヒントや安全への注意や気付きの質を深める投げかけがされている。
総 括	○ダイナミックな活動写真や挿絵で学習活動を示し、児童の興味や関心、学習意欲を引き出し、思いや願いをもって主体的に活動が展開できるよう構成されている。挿絵の吹き出しは、育てたい資質や能力にそった言葉が示されている。また、登場キャラクターを中心に、対話を示した場面やICT活用、掲示物や板書例など、学習活動を可視化することで生き生きとした活動となり、深い学びができるよう工夫されている。

生活科調査資料

書名 項目	『新版 たのしい せいかつ』 発行者番号 4 発行者名 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ・上下巻末に配置されている「がくしゅうどうぐばこ」、適宜示されているキャラクターによる安全に関する配慮事項、児童の活動や思考を促すヒント、必要な投げかけにより、知識及び技能が習得できるよう工夫されている。 ・児童が課題意識をもって活動を行うことができるよう、また教師にとっても毎時間のポイントがわかるよう、各ページ見開きに活動内容が示されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ・考えたことを人に見せたり、繰り返し書き直すことで新しい発想に至ったりする力が育成されるようになっている。絵や言葉、動作化、多様な活動例が取り入れられている。 ・ものを作る活動では、試したり、工夫したりする活動が自ずと生まれるよう、材料や道具のコーナーを作って、児童の試行錯誤が生まれるよう工夫されている。 ・絵や文章だけではなく、動作化や劇化など多様な表現方法が例示されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ・問いかけの言葉が使われており、児童が自ら考え、行動する学びの流れが感じられる構成となっている。また明るく前向きな言葉やキャラクター吹きだしの言葉は、児童の抱く思いに寄り添った言葉が多く掲載されている。 ・活動後の振り返りから、次の活動へつなげる流れが明示されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ・他教科とのつながりマーク、3年生理科を意識した題材が取り上げられており、つながりがもてるよう工夫されている。 ・季節ごとの家庭や地域での行事を取り上げるなど郷土や文化と生活に親しむことができるようになっている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ・単元の導入ページが見開きで構成されているとともに、具体的場面の写真が効果的に使われていることで、児童の驚きや感動、自分もやってみたいという思いが引き出されるようになっている。 ・学校のことを家庭で報告する場面を適宜設けてあり、家庭との連携が図られている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ・イラストの盛り上がりから手で触って興味をそそる、モノクロ写真から色や音、においを想像させるなど、五感に訴えるような工夫がされている。 ・パソコンマークが明示されており、イラストだけでは分かりにくいものが、より詳細な解説で見られるようになっている。 ・季節に沿った大単元構成で、スムーズな学習展開になっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ・絵や写真（イラスト）が多く、これまでに親しんだ絵本からの移行がスムーズである。 ・ユニバーサルデザインや特別支援教育に配慮されている。
表記・表現	・見開きの構成で、単元名⇒活動内容⇒イメージや見通しがもちやすく、活動がスムーズに展開できるように工夫されている。 ・キャラクターやコーナー、マークが取り入れられ、知識や技能の習得、学びの広がりや深まりが導けるよう工夫されている。
総 括	・「見る」「さわる」「考える」「やってみる」など、児童の様々な感覚に働きかける工夫がされており、児童の思いや願いを育み、具体的な活動や体験が引き出されるよう構成されている。 ・多様な表現の場面、表現方法、交流場面、環境構成の例示がされていることで、深い学びに導けるよう工夫がされている。

生活科調査資料

書名 項目	『しょうがっこう せいかつ』 発行者番号 11 発行者名 学 図
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○生き物などの資料を巻末に分けるのではなく、学習したページに続けて載せることで、すぐに資料が見られるようになっている。生き物の成長の様子は、矢印で明確に順序が表され、どう成長するかが一目でわかるようになっている。 ○巻末の学び方図鑑では、学ぶための力を付けるための活動の基礎となる内容がまとめられ、場面ごとに活用することで、知識及び技能が習得されやすくなっている。一つの単元で終わる内容ではないため、わからなくなったり必要になったりした場面で自主的に振り返ることができ、知識及び技能が習得できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○ページの見開きをひとつの活動単位とし、願いをもつところから、主体的・対話的な活動、伝え合い、振り返りという構成になっており、一通りの流れがわかりやすくなっている。 ○キャラクター同士が対話したり、協力したりする様子がイラストで表されたりしており、伝え合い方やその先の活動について考え、実行しやすくなっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元ごとに主役となるキャラクターが異なり、そのキャラクターのつぶやきを通して、児童の気付きを高められるようになっている。そのキャラクターの吹き出しが明確にわかるようになっている。一人のキャラクターの変容が追いやさうになっている。 ○自分の願いに対して自身で決めて活動できるよう自己決定していく場面を多くもたせているので、活動に必然性が見え、自然とやりたくなる工夫が多く見られる。
資 料	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○自分を取り巻く友達や支えてくれている大人達へ「ありがとう」という言葉を、大きくわかりやすく紙面に示すことで、感謝の気持ちをもてるようにする工夫がある。 ○方法についての説明が詳しく、やりたいと思ったことが誰でもできるようになっている。例えば、野菜は植え方、おもちゃ作りは作り方が詳しい手順で書かれている。
表記・表現	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○キャラクターの吹き出しの言葉により、やってみたいという意欲が喚起されやすくなり、学習意欲につながるように工夫されている。 ○「ものしりノート」や「ものしり図鑑」などの資料により、児童の興味関心を引き出しやすく、自主的に調べられるようになっている。例えば、おもちゃ作りの単元では、16個の例が紹介されている。巻末ではなく続けて載っていることで、興味 関心をもった対象をすぐ調べられるという工夫が見られる。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○資料がQRコードで示されており、夏休み中の活動も含め、自主的に調べられたり、映像資料等を通すことで、わかりやすくなったりしている。 ○カード例の数が多く、活動によっては1つの活動でも数枚のカードの見本が載せられているので、それぞれの活動に合った見本を見て学習できる。また、カードが活動順に並べられており、順を追ってどんな活動をするのか、また、行ってきたのかが一目でわかる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○写真は、大きくきれいで見やすいものを中心に載せており、どの写真に注目したらよいかわかりやすくなっている。大きいことに加えて、細部までわかるようになっており、人でも動植物でも物でも、写真の大きさを生かしたつくりになっている。
総 括	○ユニバーサルデザインを配慮して読みやすい書体で統一されており、目に優しく判別しやすい色使いが使われたりすることで、見やすい使いやすい紙面になっている。 ○「やくそく」では、イラストでやってはいけないことを表しており、なぜだめなのか、どこがだめなのかを考えられるようになっている。
	○活動に主体性をもたせる場面が多く、児童の願いに対して児童が自己決定できる。見開きの中で活動が一目でわかって活動しやすく、また活動をさらに広げるために、資料が一続きだったり、説明が詳細に載っていたりし、知的好奇心に基づき、自主的にどんどん活動ができるような構成である。人と対話する描写が多く、考えを他者に伝え協力しながら活動したり、人とのつながりに関心をもち大切にしようしたりすることにつなげている。

生活科調査資料

書名 項目	『せ い か つ』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	<知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習のめあてをサイコロのイラストの中に示し、児童がめあてをしっかりとって学習に取り組めるようになっている。 ○「やくそく」や「できるかな」が示され、ルールや危険なことへの知識など、生活上必要な知識や技能が身に付けられるよう、工夫されている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「見付ける、比べる、例える、試す、工夫する、見通す」などの学習活動を通して、児童が豊かな活動ができるようになっている。 ○「はてな」により、学び方を身に付けることができ、「いぐらキャラクター」の何気ない無自覚な気付きのつぶやきから気付きの質を高めることができるようになっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○主体的に活動の動機付けができるように単元とびらに経験や意欲を喚起する「わくわくすいっち」を設定している。そして、そこから「はっけんロード」「はてな」へとつながり、気付きを促し、質を高めていくことができるようになっている。 ○「吹き出しの書き込み欄」や「ぐんぐんはしご」の活用により、学習を振り返り、自己評価につなげることができるようになっている。 ○2人の児童を2年間にわたり登場させ、児童目線でつぶやく姿から生活科で育む資質・能力が育成される姿が表され、学習意欲を高めている。 <特記すべき教材や教科の特性> ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿がイラストで示されており、幼・保との関連を図りながら、安心して学べるようになっている。 ○学びのポケットがあることで、活動を広げられるよう工夫されている。また、他教科とのつながりに目が向けられるようになっている。
資 料	<学習意欲を喚起するための工夫> ○「わくわくクイズ」や「もしも」などにより、児童の興味関心を高め、学習意欲を喚起し、協働的に学ぶことができるようになっている。 ○キャラクターや登場する子供たちと一緒に学習している雰囲気を楽しませている。 ○児童の心に響く写真が多く使われている。 <学習効果を高めるための工夫> ○「はてな」の投げかける言葉で、児童の気付きが深まるよう工夫されている。 ○「りかへのまど」「しゃかいへのまど」が提示され、理科や社会へのつながりが示されている。「学びのポケット」には、他教科との関連も提示され、それぞれの学習で学んだことが生かされるよう工夫されている。 ○たくさんICTの活用が可能で、意欲的協働的に学べるようになっている。 <レイアウトの工夫> ○写真やイラストが大きく生き生きとしている。 ○植物や生き物の成長の様子などが比較しやすい写真が提示されている。 ○児童の目線での写真や挿し絵が多く取り上げられている。
表記・表現	○文字が大きくはっきりとしていて、読みやすい。 ○SDGsにも目を向け、意識付けができる表記がある。 ○キャラクターや吹き出しによって、思考を促すヒントがあり、気付きの質を深めることができるようになっている。 ○見つけたよカードなどの例示が多く、参考になる。
総 括	○「わくわくスイッチ」「サイコロ」「はっけんロード」「なにをかんじたかな」「ぐんぐんはしご」で構成され、児童の学習活動が主体的・対話的で深い学びが行えるように工夫されている。また、単元末には、学習したことを家庭や地域に広げることを意識した構成となっている。「学びのポケット」が示され、生活科や他教科で学んだことを相互に関連付け活用しながら学びが深められるように工夫されている。

生活科調査資料

書名 項目	『 せ い か つ 』 発行者番号 26 発行者名 信 教
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○生活するために必要な知識及び技能は、絵や記号を遣って提示している。 ○地域の特色や実際の行事の様子を、四季をとおして写真・絵を掲載することで、身近に感じられるように工夫している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各単元で、児童が自分や友達の生活・成長・地域との関わり方などを振り返ることができるように配慮している。 ○子供のキャラクターが単元の展開をリードし友達同士の学び合いの姿を例示することで児童自身の思いや願いを次の活動に生かすことができるよう工夫している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○活動の中にある「感動体験」、試す・確かめるなどの「探究活動」、自らの体験を見返し味わう「表現活動」を多様に示し、児童同士の学び合いや情報交換の場を位置付けている。
	○動物や植物との継続的な関わりについての発展的な学びや、体験を元にした表現の具体例が示されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○具体的な活動や体験への興味・関心を高めるために、写真や絵で子供が活動に取り組む姿や、比べたり試したりする姿などを例示している。 ○健康で安全な生活を送るために必要な生活習慣が習得できるように、季節や成長段階を踏まえて「きをつけよう」を設定している。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○各単元の最初のページ、見開きいっぱいに単元のめあてをイメージできる写真や絵を掲載し、活動への意欲と興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ○活動を支える教師の姿が挿絵に示されている。 ○児童同士や、自然・植物・地域と児童の関わり方について写真や作文の中で表され、児童の豊かな学びにつながるように配慮されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○QRコードでは、動植物の写真を見ることができ図鑑として学びを深めることができる。 ○観察カードや日記が要所に示され、児童が日頃から記録に残して振り返る意義を感じられるように配慮されている。 ○他教科との関連や3年生以降の教科との関連、ICTの活用について示されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○注目させたい場所に目が向けられるよう、写真や挿し絵の大きさ、画角等が工夫されている。
表記・表現	○紙面を構成する挿絵、写真、児童の作品については、体験や活動の質が高まるよう配慮されている。 ○教科書の内容と関連する動物や植物、活動例等の図鑑的資料を閲覧できるQRコードを巻頭に設け活用できるように工夫されている。
総 括	○地域に生まれ、地域に育つ児童が、四季を通して自分・友達・家庭・地域・動植物と関わることを重視した発展的な学びや、体験を元にした表現ができる内容構成となるように工夫されている。挿絵の吹き出しは、育てたい資質や能力にそった言葉が示され、思いや願いをもって主体的に活動が展開できるよう工夫されている。

生活科調査資料

書名 項目	『 せいかつ たんけんたい 』 発行者番号 38 発行者名 光 村
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○吹き出しが多く、児童の予想されるつぶやきがたくさんあることで、学習のヒントになり、知識及び技能が習得できる工夫がある。 ○写真が多く、見開きの中でも、中心になる写真が活動の主な内容を伝えるのに対し、小さな数枚の写真を通して児童の活動の幅を広げ、他にできる活動を児童に伝えている。また、気を付けたらよいポイントも、写真でわかりやすくなっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○教室など児童を取り巻く学習環境を積極的に大きく提示し、対話を促す学習環境がそれぞれの場での児童の活動イメージを捉えやすくしている。 ○「どうしてだろうなんだろう」のコーナーでは、答えを提示したり、漠然と考えさせたりするのではなく、考えることをいくつかに絞った上で、なぜなのかを考えさせることで、思考力・判断力・表現力等の育成につながる工夫がある。 ○単元の最後に、活動を自分の言葉でまとめる場を設定することで、これまでの活動に対話的な活動を通して振り返り、次に多様な表現活動を通して自分の気持ちをまとめるという丁寧な段階を踏んで活動できる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「こんなことあるかもね」などのコーナーが多々あり、失敗しても、人と違っていいという多様性を大切にしており、自分らしく、主体的に学びを深められる工夫が見られる。 ○見開きごとに学びを振り返るコーナーを設け、活動しただけで終わらない工夫がある。振り返りは「情意の面」と「資質・能力の面」で行うことができる。「資質・能力の面」では、「みつけた」「くらべた」「たとえた」など生活科の学習における気付きの質を高めるための言葉が活動ごとに選ばれ、その都度適切に振り返れる工夫がある。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○絵本作家のイラストと、児童の活動の写真とをバランスよく組み合わせている。イラストは活動の全体を把握でき、写真は具体的な活動が理解できるようになっている。 ○保護者に向けて、学習の狙いや注意、お願いなどを載せ、保護者とともに教科書を開くきっかけを示し、また家庭での協力を仰ぎやすくしている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○豊かで個性的な子供たちの表情や身振りなどの写真から、楽しさや真剣さが伝わり、写真を通して児童がやってみたい、楽しそうと思えるような工夫がある。 ○「こんなのもいいかもよ」では、さらにアイデアを出させるための工夫がある。イラストになっていることで、全く同じように真似するのではなく、児童が自分で考えて作り上げたくなるような工夫になっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○季節ごとの生き物が一枚の固いシートにすべて写真で掲載されており、そのシートをいつも持ち運ぶことで、授業や休み時間などに、すぐに季節の生き物を自主的に確認できる。 ○「はるからそだてるはな」や「あきからそだてるはな」では、それぞれの花の種・芽・つぼみ・花・実が一覧で見られるようになっており、それぞれの成長の様子がすぐわかる。 ○作り方などあえて詳しく載せるのではなく、どうしたらよいか考える余地を与えている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○メインの写真（イラスト）を中心に、中・小サイズの写真を通して、具体的な活動が広がっていくように配置されている。写真の児童の表情は豊かで、感情が伝わりやすい。 ○イラストの中にQRコードが載っており、注意やお願いなどが目立つようになっている。また映像で詳細が確認できるようになっている。
表記・表現	○イラストや文字は、優しい色使いで統一されている。文字のフォントも硬すぎない印象のものや、あえて手書きの文字もあり、児童が親しみやすいように工夫されている。 ○表紙は白地にイラストのみで、シンプルである。名前を書く欄が大きく、裏には配慮や工夫が書かれており、児童向けのメッセージがQRコードですぐ見られるようになっている。
総 括	○あまり手順や方法、答えを提示せず、自分で考える力を養えるような構成となっている。振り返りでは、情意面と資質・能力面の両方を、活動ごとに徹底して行うことで、気付きの質を深める工夫があり、次時への意欲を高めている。イラストや写真を多用し、また手書きの文字を使うことで、児童が親しみやすく、意欲的に取り組めるようになっている。

生活科調査資料

書名 項目	『 せ い か つ 』 発行者番号 61 発行者名 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ・上下巻末に配置されている「がくしゅうずかん」、適宜示されている「こんなときどうしよう」などの各種コーナーで、あいさつやマナー、安全上の注意などの基本的生活習慣や道具の使い方などの知識及び技能が習得できるようになっている。 ・「がくしゅうずかん」で、調べ方、記録の仕方、伝え方、整理の仕方がなどの基本的な知識・技能や学び方が示されており、その力が身に付くよう工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ・単元導入が「わくわく」、主な活動が「いきいき」、振り返りが「ぐんぐん」の3段階で構成されており、探究的な学び方が身に付くよう工夫されている。 ・キャラクターが気付きを促したり疑問を投げかけたりする、写真や具体物を示すことで、児童が「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」など多様な学習活動が展開できるよう工夫されている。 ・絵、言葉、動作化、劇化、ICTの活用など、多様な活動例が取り上げられている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ・単元扉とわくわくタイムで児童が思いや願いを高め、学びの見通しをもつことができるよう具体的に明示されている。
	・単元末の「できるかな できたかな？」のコーナーでは、学習を振り返り、自らの学びの深まりを実感できるようになっている。次の活動への安定的で持続的な意欲が育まれるように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ・グループで考えたり、話し合ったりする活動の様子が具体的に示されており、他者と意見を交流することで自分の考えを広げたり、深めたりする協働的な学びの姿がイメージできるようになっている。 ・3年生以降へのつながりが考えられている。社会科につながるように身近な地域の様子を絵地図に整理する活動や、理科につながるよう空気やゴムを使って遊んだり、楽しみながら観察をしたり、自然のすばらしさや季節感を感じたりする学習活動を設けてある。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ・導入段階「わくわく」において、日常生活やこれまでの経験から想起させる投げかけや吹き出しの会話文、効果的な写真や影絵などを活用した「わくわくボックス」が設定されており、「～してみたい」という児童の思いや願いが高められるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ・教師の言葉かけや働きかけの例が、「経験を引き出す」「意味づける」「価値づける」「表現を引き出す」「称賛する」「説明する」という観点から豊富に掲載されている。 ・動画、スライド、音声、WEB 図鑑などの QR コンテンツが掲載され、学習内容に関連する参考情報が閲覧できるようになっている。 ・児童の思考を促したり、学習を方向付けたり、気付きの質を高めたりする教師の支援の例をイラストや吹き出しで具体的に掲載してある。 ＜レイアウトの工夫＞ ・全単元を通して、思いや願いの実現に向けて、身近な生活に関わる見方・考え方を十分に生かしながら、いきいきと活動する児童の姿を写真やイラスト、吹き出しで具体的に例示されている。
表記・表現	・キャラクターやコーナー、マーク、イラストや子供の台詞が効果的に取り入れられ、知識や技能の習得、学びの広がりや深まりが導けるよう工夫されている。 ・めくり言葉が使われており、児童の気付きや思いや願いが、次の活動につながるようになっている。次の活動への期待感が高められるようになっている。
総 括	・すべての単元が、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成されている。各紙面の構成要素の位置が固定されているなどの点から、活動の流れがとらえやすく学びのプロセスがわかりやすい構成となっている。めくり言葉や発達段階に応じた表現方法、活動場面例が系統的に示されているとともに、具体的な活動や体験活動に結び付く工夫がなされ、児童の思いや願いを育み、深い学びに導けるよう工夫されている。

音楽科調査資料

書名 項目	『 音楽のおくりもの 』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○体を動かし、音や音楽を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素との関わりに気付く学習活動が多く取り入れられている。 ○QRコードを読み込むと多様な奏法の仕方などが示されており、音色の違いや演奏のおもしろさを味わい、表現活動に取り組んだり技能を習得したりすることができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○鑑賞曲で楽譜を丁寧に扱っている。オーケストラのスコアを扱い、見方や音の重なりなどを見やすく示している。「まなびリンク」でも演奏と楽譜のアニメーションで旋律の動きをとらえる動画を見ることができる。 ○音楽づくりのバリエーションが豊富である。それにより、他の楽曲でも音楽を形づくっている要素などいろいろな気付きが生まれ、表現活動でも児童の思いや意図の広がりが見られる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○幅広い知識と教養を身に付けられるよう、一線で活躍する演奏家などから子供たちへのメッセージが掲載されている。 ○児童自身が見通しをもって主体的に学習を進めることができるように、学習活動の手順が示されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○様々なジャンル、表現方法の音楽に親しめるよう教材が工夫されている。 ○他教科横断教材として、短時間学習の教材としても扱える「ショートタイムラーニング」コーナーが巻末に設置されている
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示し、3年生以降は自ら見つけた要素等を書き込む「メモ欄」が設けられている。 ○様々なジャンルの中から教材が選ばれている。児童が親しんでいるテレビや映画の音楽が選ばれていたり、作者からのメッセージがバーコードで読み取れたりしているため、思いや意図をもって表現するときの手掛かりにすることができる。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「音楽のもと」のまとめ、音楽を表すいろいろな言葉が巻末に示されていることにより、児童の思考の助けになる。これが学年に応じて変わっていることで、その学年で児童が使えるとよい表現のモデルが見られるので、評価もしやすい。 ○音楽づくりは、順を追って段階的に取り組めるように設計されている。例が示されているので、取り組みやすい。 ＜レイアウトの工夫＞ ○実物大の鍵盤ハーモニカの写真やその他の楽器も実物を確認できる写真が掲載されている。
表記・表現	○巻末の国歌『君が代』のページに、オリンピック・パラリンピックの多様な種目、全国各地にある「さざれ石」の写真が全学年に掲載されており、歌詞の意味や国歌が大切に歌われる場面について丁寧に扱っている。 ○表現や活動の参考となる写真やイラストを配置している。
総 括	○歌唱共通教材では、日本の美しい自然や四季を感じ取れる見開きの写真が掲載されていたり、服装やどのように親しまれてきたかなど、文化的な背景が紹介されていたりしている。 ○全学年、目次の次のページに学習マップがあり、1年間の見通しがもてる。また、学習の振り返りもしやすくなっている。

音楽科調査資料

書名 項目	『 小学生の音楽 』 発行者番号 27 発行者名 教 芸
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○それぞれの教材に「見つける」「歌う」などのマークで学習活動が示されており、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」が明確になっている。 ○発声や楽器の奏法のコツが的確な表現で示されていたり、写真付きで掲載されていたりするのでわかりやすく、児童が着実に技能を身に付けることができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各楽曲にある「考える」マークでは、各活動を通して何を考えるかが明確に示されている。また、キャラクター（子供たち）の吹き出しには、児童の思考・判断・表現の助けになる言葉が示されている。指導する側も指導のポイントがわかりやすく、ぶれにくい。 ○楽曲どうしの比較がしやすいよう、選曲されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○郷土の音楽を伝承する大切さを伝えるコラムや写真などの掲載や、職業として音楽活動をしていることがわかる写真を掲載し、音楽と職業を関連させる工夫がなされている。 ○地域に伝わる音楽の取り上げ方を工夫し、郷土の音楽を身近に感じながら鑑賞することができる教材や資料を取り上げている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○時間の経過と音の流れを関連付けて視覚的に捉えられる新しい教材（クロックミュージック）が取り入れられている。 ○著作権に関するページが見開きで設けられており、タブレット等で音源を使用するうえで必要な知識が示されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○QRコードやパソコンマークが付いており、技能を高めるために練習をしたり、自ら学びを深めたりすることができるようになっている。QRコードが定位置にあるため、活用しやすい。 ○「チャレンジ」の学習では、調べ学習やインタビューをする内容があり、様々なアプローチで音楽を学ぶ方法を知ることができる。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○現行の教科書と比較すると、鑑賞において楽曲の構成をとらえやすくなっている。聴く観点を絞って鑑賞できるように、速さや使われている楽器などの情報が多く示されている。 ○タブレットの活用で、旋律づくりや音楽づくりの活動がしやすくなっており、作ったものをすぐに再生したり、作り直したりすることが簡単にできる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○「思い出そうコーナー」では、以前学習したことをもう一度確かめ、その内容を、新たな学習で生かせるようにしてある。
表記・表現	○巻末の「ふりかえり」では、学んだ教材や絵、図、楽譜を用いながら音楽を形づくっている要素を確かめることができる。 ○縦書きの歌詞があったり、ユニバーサルデザイン（配色、文字、イラストの色の濃度）を取り入れたりして、読みやすさの確保がなされている。
総 括	○1年生から継続して「気づく」「考える」「演奏」の流れで構成されているため、学習の流れの見通しをもって活動に取り組み、学びを深めることができるようになっている。 ○単元のまとまりで振り返りが書かれているので、単元を通して何を学んだかを確認できるようにになっている。

図画工作科調査資料

書名 項目	『図画工作』 発行者番号 9 発行者名 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○学習のめあてや活動の流れがわかりやすく、見通しをもって活動できる。 ○大きい写真と児童の視点に立った説明が理解を助け、使う道具のイラストがわかりやすい。 ○製作方法を児童が活動している姿の写真を使っており、わかりやすく説明されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○キャラクターの吹き出しの言葉がヒントとなり、児童の思考・判断を刺激するための工夫がされている。 ○児童が試行錯誤する中で自主的、主体的に取り組めるような活動が設けられている。 ○「ひらめきショートチャレンジ」では、想像力をかき立てる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○題材名が児童が発想しやすい、感覚的で想像をかき立てられるものが多い。 ○参考作品が大きくカラフルで、作者の思いや考え方が伝わってくる作品が多く取り上げられている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○県内の伝統文化や美術館、県内出身のアーティストを取り上げることで、造形活動への意欲を高めたり、郷土を愛する心情を育てたりする効果が期待できる。 ○持続可能な開発目標（SDGs）に配慮した材料として紙のストローに替えたり、5・6上では、「SDGsコラム」を設けたりして、持続可能な社会の創造につながることを示されている。 ○5・6下では、未来につながる図画工作として、キャリア教育の視点でも掲載がある。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「学びの資料」や題材ページにタブレット端末の活用例が示され、また、振り返りの仕方が示され、今後の学習活動でチャレンジしていきたいことを想起させる工夫がされている。 ○はっきりとした色合いの作品例を扱い、児童の意欲を高めている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「QRコード」により、用具の扱い方や作り方、参考作品を見ることができる。 ○巻末資料ページ「造形の引き出し」には、児童が制作を行う際の手助けとなる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○参考作品が多く、児童がいろいろ作ったり描いたりしてみたいような作品を掲載している。 ○他教科との関連、つながりがわかるように「あわせて学ぼう」が設けられている。
表記・表現	○用いられている写真の大きさ、レイアウトにメリハリをつけ、創作活動の意欲が高められるよう工夫されている。 ○児童の活動写真が生き生きとしており、活動内容や作ろうとする作品が理解しやすい。
総 括	○参考作品や活動例示において学習意欲がわかりやすいものが多く、1年の学習の流れが理解しやすく、バランスのよい学びができるように配慮されている。 ○めあてや振り返りが明記されており、他教科との授業の流れが統一できている。 ○ICTの活用や持続可能な開発目標（SDGs）の視点も意識して作られており、現代的課題に対応されている。

図画工作科調査資料

書名 項目	『図画工作』 発行者番号 116 発行者名 日 文
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻末に「材料と用具の引き出し」、題材のページに「QRコード」があり確認しやすくわかりやすくまとめられている。 ○製作方法がイラストや写真で順序だててわかりやすく丁寧に説明されている。 ○表現・鑑賞のヒントが数多く記載されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○児童の思いが書かれている吹き出しや表現のヒントとなるものが多くあり、発想の手助けとなっている。 ○「ひらめきのたね」で発想を広げる仕かけが設けられている。 ○「図工のみかた」が学年ごとにあり、発想や構想、表現のヒントを紹介している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○活動風景の写真が、実際の授業を撮影しており、児童の好奇心を引き出すような工夫がされている。
	○ほとんどの題材に鑑賞が組み込まれており、振り返りの活動を通して、感じたり、考えたりしてほしいことなど、児童の気づきを大切にしている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「つながる学び」として他教科や他の題材との関連をもたせた題材が設定されている。 ○持続可能な開発目標（SDGs）に配慮したものや生命の多様性・共生に関する作品が取り上げられている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○1・2上では、初めての学習に戸惑いを感じさせないために、絵・工作・立体・造形を最初においている。 ○3・4下では、作品を家庭で使う様子などから、作品を家庭でも大切にする様子がわかる。 ○アート・カードの活用方法がわかる特設ページがあり、作品を見て楽しむことができる。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○巻末に用具の使い方が「かく・切る・うつす・粘土…」と取りあげられており、見つけやすく掲載されている。 ○高学年に（5・6上）に接着剤の適合表を示すなど、児童が材料の素材に適した接着剤を使用できるように配慮されている。 ○「QRコード」で材料の使い方について、場面ごとに短く区切ってあり、必要な場面を選んで視聴することができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○児童が活動している場面の写真が多く、全体的に発色が淡い色合いで整えられている。 ○ICTの活用方法についてタブレットのマークで示してある。
表記・表現	○「気をつけよう」「片づけ」「ふりかえり」と明記されており、授業の流れがわかりやすいように構成されている。 ○全体的に発色が淡い色合いに整えられており、落ち着いた色合いになっている。
総 括	○児童の発達に応じた材料の提示や資料が多くあり、全ての題材で3つの観点が示され、何を身に付けるか題材のゴールが明確である。 ○全学年にわたり、イラストやマークを多用し、わかりやすく伝えようとする工夫が多く見られる。 ○実際に児童が活動している写真を使い、SDGsや共生社会など今日的課題も意識した内容となっている。

家庭科調査資料

書名 項目	『新しい家庭』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○基礎技能動画が豊富にあり、全ての調理実習・製作実習の動画を収録している。ステップごとの学習に合わせたQRコンテンツで、基礎基本をしっかりと押さえられる。 ○「成長の記録」のポートフォリオを活用することで、学習を振り返り、自己の知識技能の習得状況を確認できる。 ○技能の見取るため、学習の終わりに「できたかな」の欄があり、自己評価ができる。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○題材の始めに、身近な家庭や学校の場面を写真やイラストで大きく示し、自己の課題をもって学習に取り組めるようにしている。 ○QRコンテンツのトライシートで、自分の考えを可視化し、整理することで、思考が深まるようにしている。 ○題材を3つのステップで展開し、問題解決的に進められるようになっており、繰り返すことで定着を図り、実生活でも役立てることができるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「生活を変えるチャンス」や「わくわくチャレンジ」を長期休業前に設定することで、家庭や地域の実践につなげることができる。 ○SDGSの視点をもって家庭科学習を進めることで、持続可能な社会を作るための生活のあり方を考えられるようにしている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○大題材最後の「活動を深めよう」にあるワークシート深めよう（PDF）により、タブレット上で写真を貼ったり記録したり等の作業がしやすくなっている。 ○デジタルコンテンツ等、他教科との横断的な学習に活用できる資料が豊富である。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○学習の流れがステップ1（みつけて）・2（とらえて）・3（ふかめる）と段階ごとに見通しがもてる。 ○ステップごとにめあてがかかれ、その時間に何をやるのかが明確である。 ○衛生・安全・防災の視点を入れた資料提示がされている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○実技・技能・安全面等、QRコードから手軽に学習することのできる映像資料が充実している。 ○「次へのチャレンジ」書き込みや既習の学習内容のチェック欄がついた「成長の記録」のポートフォリオにより見開きで2年間の学習を見通すことや振り返ることができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○導入時に学習を導くキャラクターの問いかけがあり、1時間毎や小単元毎のページにめあてや活動が明確になる表記がされている。 ○資料で写真を多く用いて見やすく配置している。
表記・表現	○関連している内容を矢印「リンク」（ページ）で示し、学習内容を関連付けて参照しやすくしている。 ○実習手順が「いつも確かめよう」の枠で統一され、要点はそこに示された「リンク」やQRコードの動画を見ることで詳しく調べることができるようになっている。
総 括	○題材が「見つめよう」「計画使用・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップで問題解決的な学習ができ、「生活を変えるチャンス」では、実践的・体験的な学習の充実が図れるように工夫されている。 ○豊富なコンテンツを活用し、思考を可視化したり、他者と共有したりしながら、学んだことを生活に生かせるように工夫されている。

家庭科調査資料

書名 項目	『わたしたちの家庭科』 発行者番号 9 発行者名 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○簡単なものから繰り返し行わせ、着実に知識・技能を身に付けさせる題材配列や資料提示がしてある。 ○技能チェック表で、学習成果を毎時間確かめられるようにしている。 ○個に応じた学習内容の設定をしやすいように、実習の難易度を★で示している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」など、授業の中で効果的に活用できる小課題を題材毎に設け、学習の思考が深まるようにしている。 ○題材の最初にその題材で意識する「生活にかかわる4つの見方・考え方」をクローバーで示し、それを達成するために、クローバーのキャラクターが吹き出し等でどのように考えたらよいか思考を促している。 ○題材全体の流れを導入写真やイラストのフォトランゲージからイメージをさせ、「マイめあて」を見つけやすくしている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞
	○SDGSの視点や消費者教育の視点を、身近なところから生活全体へと段階的に身に付けていける題材配置にしている。 ○「レッツトライ」や「生活の課題と実践例」から具体例をヒントに自分の生活課題を実践で取り組みやすくしている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○動画が「全体の流れ」と「一部」とがあり、スピード調整も可能で、支援の必要な児童への個別指導にも生かせる。 ○イラスト等で人種や男女差、様々な家庭の形に対応したり、配慮したりしている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○学習のめあてが、1・2・3と段階を追って明記され、単元の見通しが立ちやすい。 ○単元の導入時に単元ごとの「学習のめあて」や「マイめあて」、題材の始まりの写真や挿絵などから題材全体の見通しをもたせやすい。 ○身近な地域や伝統食を多く取り上げたり、題材の終末に「生活に生かそう」で振り返りを書き込ませたりすることで、自分の生活を見つめる機会にしている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○キャラクターの吹き出しで、学習への注意やアドバイスを呼びかけ、親しみやすくポイントを伝えるようにしている。 ○野菜の切り方で大きさをイメージしやすいように、実物大の資料を掲載している。 ＜レイアウトの工夫＞ ○巻末の折り込みや背表紙、豆知識の資料が充実しており、興味をもちやすく、実習時の確認に生かしやすい。 ○各題材で項目毎に配置の統一がされ、見開きで作業毎の色分けをしてあり、左から右へと実習の一連の流れが見やすくわかりやすくしている。
表記・表現	○課題提起で、児童が何をしたいのか考えるように「～するとよいと思う？」など投げかけている。 ○関連資料や既習の学習を矢印(ページ)で示し、学習内容を関連付けたり、家庭科用語やインターネット参照資料を背表紙裏に一覧表にしたりすることで、参照しやすくしている。
総 括	○題材毎に、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップからなり、見通しをもって課題解決型学習が進められるように配慮され、家庭での実践につながるように構成されている。 ○スモールステップで簡単なものから繰り返し取り組んだり、多様なコンテンツを用意して目で確かめたりしながら、基礎的・基本的な内容の定着が図られるように工夫されている。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『新しい保健』 発行者番号 2 発行者名 東京書籍
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、重要な部分が太字で記述され、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できる。 ○各項の内容を主体的・対話的で深い学びとなるように、4つのステップの学習パターンによってまとめ、基礎的・基本的な内容が習得できる構成になっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「調べる・解決する」の欄で事例について原因を探究・分析したり、資料を基に思考したりする活動を通して、自分の考えを深める構成になっている。 ○「深める・伝える」の欄では、身近な生活場面や学習したことを基に、自分自身の考えを記述し、他の児童と伝え合う構成になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各項の冒頭で「学習課題」が明示されている。課題を明確にすることで、課題を自分のこととして捉え、ワークシート形式で分かりやすく、学びに向かえるように工夫されている。 ○章末の「学習をふり返ろう」では、その章の学習を終えて、もっと知りたい、調べたいと思ったことを書く欄が設けられ、更なる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○グラフや写真、挿絵等がシンプルでわかりやすく、児童が手に入れた情報を掲載したり、調べたいという意欲をかき立てる素材となっている。 ○今日的な情報を取り入れた「資料」のページが充実し、児童の命や日常の健康を守るための情報を豊富に取り入れている。 ○命や健康を守るために児童に身に付けて欲しいスキルについて扱う箇所には、参照しやすいように「スキルマーク」で表している。 ○持続可能な開発目標「SDGs」について映像をもとに学ぶことができる特設サイトが設けられている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○単元の導入に、身近な生活や自分の経験を振り返って考える活動が大きな写真とともに掲示され、児童の学習意欲を喚起する資料となっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○教師側に指導のしづらさがある性教育や薬物乱用などをQRコードで詳しく調べられるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○児童が思考・判断したことを表現したり学習をまとめたりする記入欄、各単元末の自己評価欄や、活用記入欄など、単元全体の評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。
表記・表現	○各項、導入1ページ、学習内容を見開き2ページ、まとめ1ページの、合計4ページで構成し、4ステップという流れで学習が示されている。 ○カラーユニバーサルデザインの視点から、配色が工夫され、誰もが見やすく落ち着いたレイアウトになっている。 ○イラストや写真、資料の大きなレイアウト、配色の見やすさ、学習の思考を助けるキャラクターの言葉等が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすい工夫がなされている。 ○重要な語句は太字で示したり、語句の解説欄が設けられていたり、関連する学習のページが明示されていたりといった工夫がされている。
総 括	○自分ごととして捉えた健康課題について授業を進められるように4つのステップから学習活動を構成し、主体的・対話的で深い学びになるように工夫されている。 ○ステップごとに思考・判断したことを表現するスペースが設けられワークシートのように活用することで、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるようにしている。 ○二次元コードから直接リンクできるデジタルコンテンツが豊富で目的に合わせて活用できるとともに、学びを深めたり、広げたりすることにも活用できる。 ○心や体の健康を守るために必要な情報や身に付けてほしいスキルを掲載し、生涯にわたって健康で安全な生活が送れるような知識やスキルが身に付くように工夫されている。 ○多様性を認め合い、共生社会を目指すことを念頭に登場するキャラクターをはじめ、資料や記述が工夫されている。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『たのしい保健』 発行者番号 4 発行者名 大日本
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○学習指導要領に示された学習内容が本文に明示されており、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○主体的・対話的で深い学びとなるよう、「学習ゲーム→課題把握→課題解決学習→活用→まとめ」のパターンでまとめ、基礎的・基本的な内容を習得できる構成になっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「話し合おう」では、自身の生活を振り返る問い掛けがなされ、自分の考えを表現する構成になっている。 ○「活かそう」では、学習したことを広げて深めるとともに、保健の見方考え方を働かせて、学習したことを家や地域で活かす活動を掲載している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元導入時に、簡単な運動やキャラクター探し、チャートを掲載し、児童がゲームを行うことで自然と学習の課題に気付き、意欲的に取り組めるよう工夫している。 ○「話し合ってみよう」「やってみよう」では、身近な題材や自分の生活について取り上げ、振り返ったり、考えたりする活動を通して、意欲的に取り組めるように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「ミニちしき」や「もっと知りたい!」では、学習内容に関連する新しい知識や補足の説明があり、インターネットを使って学習するなど、理解を深めるための工夫がされている。 ○巻頭でアスリート等の「夢と健康」についての紹介を行ったり、運動の例を示した資料を掲載したりして、健康について考える工夫がされている。 ○巻頭の折り込みを使用し、「つかもう」欄の下を隠すことで、児童の集中力、興味関心を高める工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」として掲載しており、何年生で学習するかを示すことで中学校への接続が図るとともに、他教科とのつながりを意識させる工夫もしている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○毎時の学習にスムーズに取り組めるような導入の活動「つかもう」を設定し、児童が自分事として捉えて考えることができるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター等の資料により児童が理解を深めることができるよう工夫されている。 ○各時間のタイトル横のQRコードから、関連するウェブコンテンツにアクセスできるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○1時間1見開き（2ページ）を基本とし、統一されたレイアウトで児童が迷いなく学習に取り組めるような工夫がされ、さらに記述欄が必ず設けられていて児童がどのようなことを考え、学んでいるのかを評価できるようになっている。
表記・表現	○各単元の導入を見開き2ページ、各項の学習内容をイラストや写真を中心に見開き2ページにまとめ、「課題把握→課題解決学習→活用→まとめ」の流れで構成されている。 ○ユニバーサルデザイン等の観点に鑑み、書体は大きく太いユニバーサルデザインフォントを使用し、配色も併せて読みやすく、児童が学習しやすいように工夫されている。 ○イラストや写真を中心としたレイアウト、配色の見やすさ、学習の思考を助けるキャラクターの言葉等が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすい工夫がなされている。 ○重要な語句は「資料」の中で解説をしたり、関連する学習のページが明示されていたりとといった工夫がされている。
総 括	○単元の最初に各時間の学習内容について整理し、見通しを持って学習を始められるように工夫するとともにゲーム感覚の活動を行うことで児童の学習意欲を喚起している。 ○見開きの上部を切ることで学習内容を隠した状態で「つかもう」の活動ができる。また、広げると「活動を行なうときのヒント」があり深い学びにつながるよう工夫されている。 ○自分の考えを話し合いや発表に活用できるように記入したり、学習したことを基に自身の考えを記述したりすることで、思考力・判断力・表現力等の育成を図っている。 ○著名人のインタビューなどから健康が夢や目標に向かうための力になることや日常の運動と健康との関連を取り上げることで生涯にわたっての健康の大切さを示している。 ○統一したレイアウトと1時間の学習の流れが教科書左側にガイドされているので学習の流れを分かりやすく示してある。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『新 小学校保健』 発行者番号 50 発行者名 大修館
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○1時間ごとの学習課題を「きょうの課題」として示し、学習すべき内容を明確にし、学習しやすくなるように基礎的・基本的な知識を簡潔に示している。 ○毎時間の学習の最後に3択のウェブクイズを用意することで、その時間に学んだ知識の確実な習得を促すように工夫してある。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○授業の導入において、身近な生活の中から健康課題に目を向けさせる発問を設定することで、保健の見方・考え方を働かせて思考できるように工夫してある。 ○キャラクターを適時配置し、思考を広げたり深めたりするきっかけを提供し、自分の考えたことをまとめたり、表現したりできるように適切な記入スペースを配置している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○コラム「体育の窓」を各所に配置し、運動療育の学習内容を保健領域で活かせるように工夫しており、体育と健康が密接に関係していることを具体的に理解できるようにしている。 ○各章の導入となるとびらのページでは、健康や安全について著名人とキャラクターとの対話形式を取り上げており、学びに入りやすいように工夫されている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○教科書の文章が少なく、動画とナレーションによる説明が多く、視覚に訴えながら学習を進めることができる。ウェブコンテンツを全部で62点用意している。 ○身近な生活の中から課題を発見することに主眼を置けるように導入が工夫され、保健の見方・考え方を働かせて、主体的な学びをスタートすることができる。 ○友達と話し合い、互いの考えを共有できるような対話的な活動を豊富に用意し、自分の考えを記入するスペースも適度設けてある。 ○急速に変化する社会の中で差し迫っている健康課題やテーマなどを積極的に取り上げ、資料として提示している。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○他教科や他学年の学習内容との関連を示し、幅広い知識と教養を身に付けられ、教科横断的な学びができるように適時配置されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○「はってん」という学びを広げる・深める資料が充実しており、学習項目で扱わなかった「発展的な学習内容」も含め、デジタルコンテンツを3・4年で20点、5・6年で31点掲載している。 ○各学習時間の最後にウェブクイズに取り組めるようになっており、学んだことを習得できているか確認することができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○イラストや写真の配置、マークや囲みのデザインなどについて特別支援教育の専門家が検証し、全ての児童が学習の流れを把握しやすく、可読性の高いレイアウトとなっている。
表記・表現	○写真やイラストの登場人物は、男女の役割を固定したり、国籍や障害の有無などにもとづく差別や偏見につながったりすることがないように工夫している。 ○さまざまな色覚特性に対応し、すべての児童にとって見やすくわかりやすい紙面になるようにカラーユニバーサルデザインの専門家が検証している。 ○「まとめ」は自身の課題を見つけ実践できることを考えた後に、他者の意見を聞いて思考を広げる対話的な学びにつなげられるような構造となっている。 ○1時間の見通しを持ちやすく、安心して学習を進めることができるように、時間配分の目安や動画の再生時間も明記されている。
総 括	○身近な生活の中から課題を発見し、3ステップのシンプルな学習過程で構成され流れが分かりやすく、主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○キャラクターの言葉をヒントに考えたり、友達と対話を進めたりすることで思考・判断・表現の育成が図れるように工夫されている。 ○記入スペースを設けることで、ワークシートの代わりにもなり、自分の考えを表現したり、友達に伝えたりする活動を通して育成を図ることができる。 ○動画やシミュレーション、ウェブクイズなどのデジタルコンテンツが用意され、深い学びや学習のまとめ、確認に活用していくことができる。 ○急速な社会変化の中で差し迫っている健康課題を資料として取り上げたり、運動領域の学習内容と保健領域の内容を関係づけたりするなど理解や内容の発展につなげている。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『新わたしたちの保健』 発行者番号 207 発行者名 文教社
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○学習内容が色付きの枠で示されたり、大切な語句や文が太字で記述されたりすることで、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各時間タイトル横に本時の流れが記されている。また1時間の流れが統一されており、順序性をもたせることで学習内容を習得しやすい工夫がなされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「もう一步先の自分へ」や「わたしの〇〇宣言」で、学習したことを基に記述したり発表したりする活動を通して、考えを深め実践できる内容になっている。 ○各時間の「Mission」で、自己の生活を振り返り自分ごととして考える視点が示され、学習したことを実生活に結びつけられるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○課題が明記されていたり、動画やウェブサイトの情報などが掲載されたりしており、児童が自分の興味・関心に応じて意欲をもって学習できるように工夫されている。 ○「もっと知っとこう課」では、QRコードから学習の参考になる内容へアクセスでき、児童がより深い知識を習得できるようになっている。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「もう一步先の自分へ」では、場面設定された状況の中で、自分ごととして考えさせることで、健康・安全について理解を深める工夫がされている。 ○各単元の最後に「わたしの〇〇宣言」という振り返りの場を設定し、学習の内容を深めたり、実生活に生かしたりできるように工夫されている。 ○アスリートや専門家からのメッセージを掲載し、健康な生活と運動について身近なこととして考えられるような工夫がされている。 ○他教科と関連する内容や中学校の学習内容を「もっと考えよう課（発展）」の中で掲載することにより、系統的で教科横断的に指導できる工夫がされている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○各単元の導入に、課題を見付けてこれからの学習の見通しをもつための2ページの動機付けページが掲載され、児童の学習意欲を喚起する資料となっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるよう工夫されている。 ○より深い知識が習得できるよう、動画や資料の二次元コードが各時間それぞれ紙面の下に配置されている。また、健康・安全に関する現代的課題が多く掲載されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○各時間見開き3～5ページの構成となっている。保健を専門としない教員や若手教員でも指導しやすいレイアウトで、児童が理解すべき知識を習得しやすくなっている。
表記・表現	○単元の導入を2ページ、各時間は内容に応じて3～5ページでまとめられ、学習の流れも統一されている。イラスト中心で、数多く掲載されている資料も大きく見やすい。 ○漢字は該当学年までに配当された漢字を使用している。また配当漢字以外でも、交ぜ書き等わかりにくい場合や一般的に読める漢字についてはルビで表記している。 ○書体や文字の大きさ、配色については、ユニバーサルデザインの観点に鑑み、読みやすい工夫がなされている。イラストは児童が親しみをもてる表現やタッチになっている。 ○学習の思考を助けるキャラクターの言葉や説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすい工夫がなされている。
総 括	○各単元の初めに学習がイメージしやすい写真や説明を入れた動機付けページを設けることで健康を意識しながら見通しを持って学習に取り組めるように工夫されている。 ○1時間の学習のまとめをもとに「もう一步先の自分へ」という記述欄を設け、学習で理解した内容を日常生活で自ら実践していけるようにしている。 ○教科書中に出ている担任の先生や養護教諭の先生の発言がより深い理解につながるように構成されている。また、「ここが大事」で知識を習得できるようにしている。 ○単元の最後に理解したことをより実践につなげていけるように「宣言ページ」を設けており、まとめとして伝え合う活動を通して、思考と理解度を確認できるようにしている。 ○いろいろな人の言葉や詩、中学校への接続を考えた発展的な資料が掲載されており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成する工夫がされている。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『小学保健』 発行者番号 208 発行者名 光文
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○基本的事項を星マーク、重要な用語や文を太字で示している。また、各章のおわりには「学習のまとめ」が設けられており、知識の定着や実践力が育成できるようになっている。 ○第5学年の心の健康、けがの防止では、「やってみよう」で児童が実習を通して技能を習得できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各時間おわりの「学んだことを生かそう」では、習得した知識をもとに、自分の生活を振り返ったり見直したりすることで、実生活に結びつけられるようになっている。 ○「話し合おう」の欄で話し合う視点が示してある。伝え合う活動が重視され、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりできるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各時間学習課題が明記されており、見通しもって学習できるようになっている。動画やウェブサイトの情報が適宜掲載され、興味・関心に応じて調べられるようになっている。 ○「学んだことを生かそう」では、学んだことを自分の生活と結びつけて考えられるようになっている。自分ごととして学習内容を活用できる構成になっている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「解説」で専門的な用語の解説を行い、学習内容を科学的な視点で学ぶことができるため、健康・安全についての理解が深められるようになっている。 ○「学習のまとめ」では、学んだことを自分の生活に生かす内容になっており、実践的に理解することができるように工夫されている。 ○巻頭で著名人の言葉を掲載したり、導入に保健を学ぶ意欲を高めるストーリーを掲載したりすることにより、学習内容を身近なこととして考えられるような工夫がされている。 ○「さらに広げよう・深めよう」では、学習内容の理解を深める科学的な資料を掲載し、根拠をもって考える力を身に付けることができる工夫がされている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○巻頭と単元の導入に、児童が学習内容を自分ごととして、また身近に感じられるような漫画形式のストーリーが掲載され、学習意欲を喚起する内容となっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が自分ごととして学習に関心をもち、理解を深めることができるよう工夫されている。 ○多くの現代的課題が掲載されている。特に、SDGsについては3・4年、5・6年ともに巻末に1ページの特集ページが設けられている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○内容が精選されており、各時間基本的に見開き1ページの構成で統一されている。また、タイトル横に二次元コードが配置されており、学びやすいレイアウトとなっている。
表記・表現	○各時間、必ず「自分の生活を振り返る」→「学習課題をつかむ」→「課題解決に向けて学習活動する」→「学習をまとめる」→「自分の生活に生かす」で統一されている。 ○印刷フォントを使用し、文字の書体や大きさは児童の発達段階に配慮されている。また、太字が見やすく、重要な語句や文が視覚的に理解しやすくなっている。 ○イラスト中心のレイアウト、図やグラフの見やすい配色、学習の思考を助けるキャラクターの説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすい工夫がなされている。 ○当該学年配当漢字はふりがなを付け、児童の読みの負担を軽減している。また、熟語に当該学年以降の漢字がある場合はふりがな付きで記し、交ぜ書きをなくす配慮がある。
総 括	○各単元の初めにストーリー形式のイラストと会話を配置することで、これから学習する内容に興味・関心を持ち、目的意識を持って学習に取り組めるように工夫されている。 ○資料を基に自分の考えを記述して伝える活動を豊富に取り入れ、表現力の育成が図られるようにしている。 ○二次元コードからのアクセスで学習の補足や現代的課題に即した資料や動画が見られるようになっている。児童が興味をもって学びに向かえるように工夫されている。 ○「主体的・対話的で深い学び」になるように、全単元統一されたデザインで学習の流れが分かりやすい構成になっている。 ○単元の最後にある「学習のまとめ」で学習した内容を選択式の問題で確認し、学習内容の確認と定着が図られるようにしている。

体育科（保健）調査資料

書名 項目	『新・みんなの保健』 発行者番号 224 発行者名 学研
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○学習指導要領に示された内容が本文にまとめられており、特に大切な部分が太字で記述される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各単元の内容を主体的・対話的で深い学びとなるよう3つのピース『①振り返る②例を挙げて話し合う③学びを生かす』というサイクルで学習を進めるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○思考力・判断力・表現力を着実に身に付けられるように「①自分で考える②友達やみんなと考える③身に付けたことを生かす」という3つのサイクルで学習する構成となっている。 ○単元ごとに振り返りシートがついており、各章の最後に個人内評価をできるようになっており、学習して身に付いたことを明確にできるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○それぞれの学習において、豊富な事例や写真が掲載されていたり、デジタル教材が活用できるようにしていたりするなど、主体的に学習ができるように工夫されている。 ○運動・食事・休養・睡眠に関することやタブレット端末の活用、思春期に起こる体の変化など日常生活と密接に関連した問題や現代的な課題を豊富に取り上げている。
資 料	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○「かがくの目」では、「見えないものが見える化」されており、カリキュラム・マネジメントを実現しやすくなるように他教科との関連を示している。 ○「つなぐ」では運動領域のつながりをはじめ、前後の学年や他教科とのつながりが明記されており、教科横断的な学びができるように工夫されている。 ○「ほけんのはこ」はより学びを広げたり、深めたりするための資料をまとめて提示しており、様々な資料を用意している。 ○1時間ごとに学びを振り返るスペースが用意されている。デジタルコンテンツも用意されており、活用することで児童の学びをまとめやすいように工夫されている。
表記・表現	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるよう工夫されている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるよう工夫されている。 ○「もっと！知りたい・調べたい」で興味・関心に沿って選択的に学習できるようになっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○安心して取り組めるように授業構成が統一されており、色を多用せず、全体を通して統一した色を使用し、マークについても全体で統一してある。
総 括	○書体はユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすい工夫がなされ、児童が学習しやすいようになっている。 ○イラストや写真を中心としたレイアウト、配色の見やすさ、学習の思考を助けるキャラクターによる説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすい工夫がされている。 ○重要な語句は太字で示したり、語句の解説欄が設けられていたり、道徳や関連する学習のページが明示されていたりといった工夫がされている。 ○「学習の進め方」と①、②、③の学習課題を全学年でデザインや配色を統一し、円滑に学習に取り組めるように工夫している。 ○各時間の初めに身近な写真や絵を配置することで、自らの日常を振り返る場面を設け、生活の仕方から健康課題を見出し実践的に生かすことができるように工夫されている。 ○決まった学習の流れの中で、資料を読み取ったり、事例について探求・分析したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等の力を身に付けるようにしている。 ○保健の学習の進め方が3つのピースを完成させる形式で明記され、見通しをもって学習に向かうことができるように工夫されている。 ○現代的な健康課題を関連付けるなど、健康・安全についての気付きを深める工夫がされている。また、運動領域や他教科の前後の学年とのつながりを明示し関連付けている。 ○二次元コードにより動画などのデジタルコンテンツに対応しているとともに、ICT機器を使うときの健康や安全についても取り上げている。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『NEW HORIZON Elementary English Course』 『NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○チャンツや歌などで自然に言語を身に付ける工夫がされている。Let's try や Let's listen など聞く話す活動が意図的に設定されている。また、第6学年の教科書に掲載されている Let's read and write では、聞く、読む、書くの順に活動が設定されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うために、Enjoy communication が設定されており、互いの気持ちを伝え合う活動が充実している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○over the horizon のページでは、異文化を学習する活動が設定されており、社会科や総合的な学習などと横断的に学習できるようになっている。また、Small talk の欄が各ページに設定されており、主体的に話す活動が毎回の授業で可能となっている。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○単語や発音の習得は、別冊の My Picture Dictionary で学習できるようになっている。実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、Small talk や Enjoy communication で充実が図られている。デジタル教材で、映像と音声を組み合わせて指導できるようになっている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○デジタル教科書と動画を活用し、Starting out をアニメーション映像にしている。続きが気になるようなストーリーにし、児童の興味をひき、場面に適した英語表現を見付けるようなしかけがされている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○学習効果を高めるため、資料には、別冊で My Picture Dictionary が用意され、該当学年で学ぶべき単語が紹介され、自ら学習できるようになっている。「話すこと」のやり取りの活動では、「何のために」「この活動をするのか」が明確になっている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○挿絵、写真等の資料は、高学年に適した文字の大きさ、資料の量となっている。各ページの欄外に補助情報が豊富にある。登場人物が固定されているので、読み進めていくうちに登場人物に対し、愛着が湧くようなしかけになっている。
表記・表現	○字体、記号・符号、用語等の使い方では、英単語、英文はポイントを絞って最低限度で表記している。文字の大きさ・行間等は適切で、色合いもよく、見やすいように配慮されている。文字を書くスペースも余裕をもっている。
総 括	○①Starting out → ②Your turn → ③Enjoy Communication → ④Over the Horizon の構成で単元が一まとまりとなっているため、同じサイクルで学習することができる。映像時間は短めに、一つの単元にたくさんの情報を詰め込まないように各単元に均等に割り振るなどの改善が図られている。GIGA スクール構想による個別最適な学びと協働的な学びにも対応している。QR コードを読み込み、家庭学習での学習の充実と、思考ツールによるペア・グループ学習の支援が可能となっている。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『Junior Sunshine』 『Junior Sunshine Word Book』 発行者番号 9 発行者名 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○チャンツや歌などで自然に言語を身に付ける工夫がされている。Let's play や Let's listen など聞く話す活動が意図的に設定されている。また、Let's read で読む活動をした後に、Let's write で書く活動が入っており、子供の思考の流れにそった構成になっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うための基礎的な力を養うために、Let's try の場面で、互いの気持ちを伝え合う活動が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○ユニットの最後のページには、単元に関連した異文化情報があり、社会科や総合的な学習などと横断的に学習できる。また、Story time では、学習した語句で物語を楽しむことができ、言語や文化に興味をもたせることで主体的に学ばせようとする工夫がある。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○単元の始めのページに領域別の評価項目が記載されている。Let's try の中でコミュニケーションをとる活動が設定されている。デジタル教材で、映像と音声を組み合わせて指導できるようにしている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○Let's watch and think では、子供たちと同世代のキャラクターが登場し、ストーリーとして授業を進める形になっているため、聞きたくなる、話したくなる題材となっている。豊富な写真、魅力あるイラストが掲載され、子供たちの興味を引き出す工夫がされている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○学習効果を高めるため、資料には、別冊で word book が用意されている。該当学年で学べるべき単語が紹介され、自ら学習できるようになっている。また、各ページに QR コードがあり、スキャンして読み込むことで、正しい発音を確認することができる。 ＜レイアウトの工夫＞ ○見開きごとに学習のめあてが掲載されており、子供たちと指導者がめざす姿を共有することができる。また、単元の始めのページには単元チャートがあり、この単元でどんな力が身に付くのか、見通しをもつことができる。
表記・表現	○字体、記号・符号、用語等の使い方では、英字は太字、日本語は細字にしてある。また、フォントも変えてあるので違いが分かりやすい。文字の大きさ・行間等は、特に問題はない。文字を書くスペースが十分とられており、4線も見やすい。
総 括	○QR コードで単語の発音、英文等が聞けるようになっている。word book で1年間で学習する単語が紹介され、内容が複雑にならないように配慮しながらも、資料を充実させている。自分の力を確かめる「Let's check」や、振り返って成長や課題を確かめられる「Can - Do チェック」が掲載されているなど、細部まで配慮されている。書く活動が各ページに設定され、従来のまとめて書く活動ではなく、帯で書く活動がとられているため、指導がしやすく、書く力が定着しやすくなるものとなっている。

外国語科（英語）調査資料

項目	書名 『 CROWN Jr. 』 『CROWN JUNIOR My Dictionary』 発行者番号 15 発行者名 三省堂
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○「STEP」で、表現や語彙について「出会う」「慣れ親しむ」「伝え合う」という学習の流れになっている。十分な音声教材があり、動画を見たり語句や表現について伝え合ったりする場面が設定されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○学習を踏まえたうえでのコミュニケーション活動ができるような工夫がある。具体的には、年3回の「JUMP」の場面で、目的・場面・状況に応じて、学習した語句から自分で話す内容を選び、思考力や判断力を働かせながら表現できる場が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「HOP」では、Unitの全体像が把握でき、ゴールが動画教材を通して示されているため、見通しを立てられる。My Goalでは、児童が自ら立てる目標設定の場面がUnitの初めに用意されているため、主体的に学習に取り組むことができる。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○デジタル教材では、動画再生機能や書く活動ができるワークシート等がある。巻末には単語カード、ローマ字表がある。別冊には、5、6年生を通して活用できるMy Dictionary（絵辞典）がついており、学習する多くの単語が掲載されている。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○児童にとって身近な日常生活の話題と、状況がわかりやすい場面設定がされている。2学年間通してメインキャラクターが同じなので、教材に親しみがもてる。振り返りの文言がシンプルでわかりやすい内容になっている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○毎時間の基本的な流れが「聞く、話す、表現する、書く」で単元構成されており、スモールステップで学習を進めることができる。書く活動の下欄外には、毎回ワンポイントアドバイスが必ず記載されており、わかりやすい。 ＜レイアウトの工夫＞ ○1時間の構成が左右見開きの活動でつながっているため学習しやすい。その中で情報を的確につかめるよう囲みなどの工夫がされている。2年間を通して統一された活動が設定されており、それに合わせてレイアウトの構成も統一性があるため見やすい。
表記・表現	○カラーユニバーサルデザインの観点から、識別しにくい配色は避け、淡い色合いとなっている。絵や説明文などの補助的な手がかりもある。書く活動には専用の手書きフォントが用いられており、4線の幅も十分ととてある。
総 括	○「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階で構成されており、見通しをしっかりとめさせてから学習を進めることができる。練習では、毎時間「聞く、話す、表現する、書く」で構成されており、児童にとって学習の流れがつかみやすいとともに、見開き1ページで学習に取り組めるのでわかりやすい。練習の分量は適切に確保されている。Story Timeなど、言語や文化について興味や理解が深まる題材も多く用意されている。別冊に、2学年を通して活用できるMy Dictionary（絵辞典）が付いている。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『 ONE WORLD Smiles 』 発行者番号 17 発行者名 教 出
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○Let's watch、Let's listen で動画視聴や音声教材があり、「見る」「聞く」活動が設定されている。Activity では、やり取りを中心に行い、Final Activity で発表につなげている。十分に慣れ親しんでから、話す（やり取り、発表）につなげている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○Think では、言語や文化、自分のことについての気付きや考えを促す活動が設定されている。単元の最後には、Final Activity が設定されており、ペア活動やグループ活動を通して自分の考えを発表できる活動が設定されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元の導入は映像を見る活動から設定されている。単元の最終活動も、モデル映像を見て確認できるため、無理のない導入とわかりやすい活動が設定されている。この動画は QR コードで繰り返し映像を見たり、音声を聞いたりすることができる。
資 料	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○書く活動は単元の最後に設定されている。巻末には絵カードや Lesson 毎に活用できるワークシートが付いている。更に、5年にはシール、6年には自分に関する表現がまとめられる My book がある。 ＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○Lesson ごとに振り返りが設定されている。巻末の付録は多く付いている。紙面はシンプルであり、単元構成が変わらず、学習の流れがわかりやすい。学校生活にあったテーマや活動が多い。興味関心を喚起するため、話題のアニメや人物が取り上げられている。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○二次元コードから、繰り返し動画や音声教材にふれることができる。段階的に活動が設定されており、目的・場面・状況にあったコミュニケーション活動につなげている。スモールステップで学習に取り組める。 ＜レイアウトの工夫＞ ○見開き1ページでの活動、もしくは1ページ1活動になっており、学習しやすいレイアウトになっている。カラーユニバーサル視点に立ち、色の濃淡に配慮することや、記号・番号・文字の補助を施すなどして、誰にも見やすい工夫がされている。
表記・表現	○書くときのアルファベットに近い形状の書体を使用している。4線の上下幅の比率は4：5：4となっており、書く練習がしやすい。読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しており、デジタル画面でも同様になっている。
総 括	○十分に慣れ親しみ、話す（やり取り、発表）につなげている。各単元の流れは一定でありシンプルな流れでわかりやすい。学校生活にあったテーマや活動が多く、話題のアニメや人物が取り上げられており、意欲を高める教材が多くある。地図記号など、他教科、道徳等との関連した教材が多い。二次元コードから、繰り返し動画や音声教材にふれることができる。巻末には絵カードやワークシートが付いている。5年にはシール、6年には自分に関する表現がまとめられる My book がある。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『 Here We Go ! 』 発行者番号 38 発行者名 光村
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○Hop! Step Jump!という段階を踏んだ各 Unit の学習で、基礎的な知識及び技能を習得できる。各 unit に Small Talk を設け、既習表現の活用と定着を図っている。相槌や褒める仕方を扱い、対話の続け方にも慣れることができる。You can do it! では、書く活動がある。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各 Unit に、言語活動を行う Let's try. と Plus One を設け、相手に伝えたり、既習表現を加えて詳しく相手に尋ねたりする。導入では、学習する表現に気付くことから始まり、聞く→チャンツ→話す→読む・書く活動とスモールステップを踏んだ活動になっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各 Unit の導入では、学習のゴールと学習の流れを明示し、「ふりかえろう」では、達成度を児童自身で評価できる。別冊の Picture Dictionary では自分が使いたい語彙を確認できる。巻末に年間の学習成果が見える「All About Me」があり、学びの記録ができる。 ＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○QR コードを豊富に掲載し、個別学習としても利用できる。音声やアニメーション、実写のモデル映像などデジタルコンテンツが充実している。他教科との連携を強化している。キャリア教育・防災教育の視点、SDGs に関する内容も充実している。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「Can-Do List」や Unit の「重点化領域」を示すことで、年間を通した目標をもって学習したり、児童自身で到達度を確認したりすることができる。全 Unit にオリジナルチャンツを設定している。英語の歌や絵本教材も充実している。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○目的・場面・状況が明確にわかるアニメーションが設定されており、楽しく学ぶことができる。Let's watch and think. と「世界の友達」にも動画が用意されているため、外国の生活や文化を理解しやすい。 ＜レイアウトの工夫＞ ○情報量は適度。見開きのイラストや写真は全体で統一感があり、場面や状況も推測しやすい。紙面上の活動は自然な流れでレイアウトされていて見やすい。セリフなどが吹き出しになっている。題目が統一されており、活動内容が把握しやすい。
表記・表現	○本文はユニバーサルデザイン書体。児童が識別しやすく書きやすい4線の幅に対応している。当該学年以降の配当漢字には、全て振り仮名がついている。カラーユニバーサルに配慮している。横幅の広い AB 判。イラストにおいては、ジェンダーへの配慮をしている。
総 括	○各 Unit の導入では、学習のゴールと学習の流れを明示し、「ふりかえろう」では、達成度を児童自身で評価できる。導入では、学習する表現に気付くことから始まり、聞く→チャンツ→話す→読む・書く活動とスモールステップを踏んだ活動になっている。Step の中にある Let's try では、Response で相槌、褒めるなどの反応の仕方を紹介している。You can do it! では自分のことを伝えるための書く活動がある。QR コードを豊富に掲載し、個別学習としても利用できる。巻末の Picture Dictionary では自分が使いたい語彙を確認できる。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『 Blue Sky elementary 』 発行者番号 61 発行者名 啓林館
内 容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○インプット→ミニアウトプットを繰り返し、語彙や表現に慣れ親しむことができる。教科書紙面に語彙や表現を明示している。jingle や Chant を豊富に入れて、聞く→話す→書くの順序で、繰り返し行い基本表現の使い方を身に付けられるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各 Unit は、導入→Step 1～3→振り返り で構成されていて、最後の Step 3 で発表活動になる。映像やイラスト、写真などから英語の意味や使い方を推測したり、コミュニケーションに大切なことを考えたりする活動が多い。巻末に Word List がある。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○Unit の扉では、Unit のゴール及び各 Step のめあてを明示し、学習の見通しが立てられるようにしている。Did you know?では、児童の興味・関心を刺激する、異文化情報を豊富に扱っている。また、関連した雑学クイズを設けている。各 Unit に Look Back を設けている。
	＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○紙面に QR コードを豊富に掲載し、個別学習としても利用できる。また、各活動の音声、世界の文化や生活について学べる映像などデジタルコンテンツが充実している。世界の SDGs に関する取組をクイズ形式で紹介している。
資 料	＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○巻末に Can-Do List があり、年間を通した目標をもって学習したり、児童自身で到達度を確認したりすることができる。各 Step にバロメーターがあり、達成度を確認しながら学習できる。全体的に色が薄く、児童にとって馴染みやすい。 ＜学習効果を高めるための工夫＞ ○Unit の始めには Unit 全体のめあて（GOAL）と各 Step のめあてが明示されているため、見通しをもって学習が進められる。Activity の所に Tips があり、コミュニケーションに役立つ会話のヒントが紹介されている。 ＜レイアウトの工夫＞ ○紙面の情報量は精選されており、シンプルである。各ページのナンバーが英語でも表記してある。各 Unit の構成を一定にしてあるため、学習や指導の流れがわかりやすい。判型は AB 判である。イラストに統一性がある。
表記・表現	○本文にはユニバーサルデザインフォントが用いられている。誰もが見やすいように文節で改行している。配色も判別しにくい配色を避けており、シンプルなイラストを扱っている。イラストにおいては、ジェンダーへの配慮をしている。
総 括	○教科書紙面に語彙や表現を明示し、jingle や Chant を豊富に入れて、聞く→話す→書くの順序で、繰り返し行い基本表現の使い方を身に付けることができる。ペア活動が多く設定されている。Activity で自分の思いを伝える活動が全単元にある。各 Unit の最後に Look Back（振り返り）を設けている。導入には Unit 全体のめあて（GOAL）と各 Step のめあてが明示されているため、見通しをもって学習が進められる。紙面に QR コードを豊富に掲載し、個別学習としても利用できる。

道徳科調査資料

書名 項目	『 新編 新しい道徳 』 発行者番号 2 発行者名 東 書
内 容	＜道徳の目標に関わる工夫＞ ○道徳的諸価値を理解させたり、自分との関わりで考えたりするために教材末「考えよう」に道徳的価値に迫る発問と自己を見つめる発問が掲載されている。 ○対話しながら多様な感じ方や考え方に気付くための学びの方法として、各学年の巻頭に「どんな学びをするのかな？」を掲載し、学習への道筋を示している。 ○道徳性の育成を意図とし、バランスよく教材が配置されている。心に残った教材や今後に生かしたいことを書く「学習の記録」が巻末に設定されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を組み合わせた「いじめユニット」を全学年同時期に設定し、学校全体で向き合えるよう工夫している。 ○全学年に現代的な課題へ取り組む5つのユニット（教材とコラム）が設置され、学年に応じたテーマを取り上げ、段階的に指導ができるよう工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○発達の段階に即し、ビジュアル教材や漫画教材等、多様な形式の教材を掲載している。幼児教育との接続に配慮した、スタートカリキュラムにも対応している。 ○全学年の「重点指導内容項目」と各学年の「重要指導内容項目」を設定し、繰り返しの指導で、段階的・系統的に理解を深めることができるようにしている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○ミニ教材「ちょっと話し合ってみよう」で議論する際の文言例を示したり、発達の段階に応じ、心情円等の思考ツールを巻末に掲載したりしている。 ○「問題を見つけて考えよう」「演じて考えよう」等のページで、問題解決的な学習や体験的な学習の進め方を示されている教材が、全学年に掲載されている。 ＜郷土(埼玉)に係る教材等について＞ ○3年には、ふっかちゃんが渋沢栄一翁や深谷市を紹介する教材「ふっかちゃんの町じまん」と、4コマ漫画として熊谷市出身の女医荻野吟子が掲載されている。 ○6年「ピアノの音が…」は、県内にある地域の話を取り扱った教材である。
資 料	○雄大な写真等を使ったビジュアル教材を低学年中心に掲載したり、考えを誘導しない表現、価値に迫りやすい場面絵やレイアウトを工夫したりしている。 ○全教材でデジタルコンテンツ（朗読音声、スライドショー、デジタルノート）が掲載され、導入や終末で使える動画資料も各学年に多く用意されている。
表記・表現	○A B判を採用し、挿絵や写真を大きく掲載している。教科書体を使用し、低学年で文節改行、分かち書きをしている。当該学年前までの配当漢字を使っている。 ○学習指導要領の4つの視点がマークと色で示され、教材冒頭の題名やテーマ欄は情報量を減らし、先入観なく考えられるようシンプルに構成されている。
総 括	○考え、議論することを促すため、文章表現や挿絵等工夫を行っている。教材末に問題解決的な学習や体験的な学習等、深く考えさせる多様な発問を掲載している。現代的な課題に取り組むユニットを同時期に配列し、いじめ、命、自分、情報、安全を6年間かけて繰り返し考えられるようにしている。児童が成長を実感し、評価や学習活動にも生かせる様々なデジタルコンテンツが設けられている。

道徳科調査資料

書名 項目	『 小学校道徳 はばたこう明日へ 』 発行者番号 17 発行者名 教 出
	<道徳の目標に関わる工夫> ○授業の見通しがもてるよう、各教材の冒頭に主題が示されている。導入の例として、読み物の前に道徳的価値について考えられるような問いかけがある。 ○各教材の末尾には「考えよう」「深めよう」「つなげよう」など、発問例が用意されており、教師が授業について考え、発問を設定する際に参考となる。 ○巻末に振り返りを書くことができる「学習をふり返ろう」と「1年間の学習をふり返ろう」を設け、児童自身が成長を感じられるよう工夫されている。 <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめ問題、情報モラルを最重点テーマとして全学年で取り上げ、教材とコラム等を組み合わせたユニットとして学習を進めることができるようにしている。 ○SDGs、食育、防災教育など現代的な課題に対応する教材を取り上げている。SDGsの各目標に関連する教材は、巻末の学習内容一覧で確認することができる。
内 容	<発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○低学年では多くの物語教材、高学年へなるに従って、歴史上の人物や文化・スポーツなど、様々な分野で活躍した人物を取り上げた教材が多く掲載されている。 ○1・2年では生命、3・4年では伝統文化と国際理解、5年で人権問題と自然環境、6年で5年に加え感謝を重点テーマとした教材とコラムが設定されている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○全学年で体験的な学習ができる教材として「たいけん」が設定されている。役割演技や動作化など、道徳的行為に関する体験的な学習が示されている。 ○問題解決的な学習を進める想定教材が、各学年2～4教材用意されている。目次に「解決」、教材末尾に「問題を解決しよう」と発問が示されている。 <郷土(埼玉)に係る教材等について> ○5年に教材「公益のために生きるー渋沢栄一ー」と深谷市内の栄一翁関連の施設等の資料が、4年には奥秩父を題材とした教材「十歳のプレゼント」が掲載されている。5年には東松山市出身の梶田隆章氏のコラムも掲載されている。
資 料	○低学年「礼儀・マナー」、3年「相互理解」、4年「気持ちのコントロール」、5年「SDGs」、6年「人権」と高めたい道徳性に係る巻末資料を用意している。 ○「まなびリンク」が各教材の冒頭と末尾に設けられ、教材の条件・状況や学習に関連する図書の紹介、教材に関連するWEBサイトなどの閲覧ができる。
表記・表現	○AB版を採用、イラストや写真、図版が大きく掲載されている。学年によって文字の大きさや行間スペースを変更し、児童が読みやすいように工夫されている。 ○低学年では分かち書き、文節改行が用いられている。漢字は教材ごとの初出にルビが付されている。難解な語や必要な情報については、脚注で解説されている。
総 括	○現代的課題の中で、学年の段階に応じた重点テーマとあわせて、特に最重要テーマとして、全学年にいじめ問題・情報モラルに関するユニットを設定している。全学年で、読み物教材と共に、役割演技や動作化など道徳的行為に関する体験的な学習を促す教材「たいけん」や、問題解決的な学習を想定した「問題を解決しよう」が設定されており、児童が主体的に考える学習へつなげることができる。

道徳科調査資料

書名 項目	『道徳 きみがいちばんひかるとき』 発行者番号 38 発行者名 光村
内 容	<道徳の目標に関わる工夫> ○学期の区切りで目次が設定され、授業後と学期ごとの振り返りができる「学びの記録」により、自身の成長の様子を自己評価の形で記録させることができる。 ○教材末の「考えよう・話し合おう」は自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するために話し合ったりすることを意図した発問が設定されている。 ○教材冒頭、キャラクターから児童への呼びかけがあり、「自分ならどうするか、どう考えるか」という主体的な姿勢で学習に取り組めるよう工夫されている。 <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○いじめや情報モラル、共生、環境に関わる教材とコラムで構成するユニット形式により、現代的な課題を効果的に学習できる配置がされている。 ○「生命の尊さ」をテーマとした教材が各学期1教材、「感じよういのち」という実感を伴った学びができるページが学年に1か所、設定されている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○全学年「演じて考えよう」が設定され、体験的な活動を取り入れている。発達段階にあわせ「考える準備体操」で、話し合いながら対話を促す工夫がされている。 ○全学年で漫画形式の教材、1枚絵や写真の教材が用意されており、視覚的に教材への興味関心を抱きやすく、自ら考えようとするための配慮となっている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○話し合いの「こつ」や友達関係を築く活動、「考える準備体操」と積み重ねて学んでいけるよう工夫され、5・6年には物事の本質について考える教材がある。 ○3～6年の巻末の付録「学びの道具箱」では、授業で活用できる思考ツールや話し合い活動を紹介し、各教材で話し合いがより深められるよう工夫がされている。 <郷土(埼玉)に係る教材等について> ○4年に旧熊谷市立星宮小を取り上げた「わたしたちの校歌」が掲載され、「年賀状に書いた夢」の資料に荻野吟子の伝記が紹介されている。1年にさいたま市出身なかやみわさんが、3年にさいたま市出身若田光一さんが採用されている。
資 料	○教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げるような絵や写真、内容を解説する図・グラフを必要な箇所に配置し、本文の理解を助けるよう工夫されている。 ○全学年を通して全ての教材に朗読や写真、インタビュー動画などのデジタルコンテンツが用意されており、授業の導入や展開で活用できる。
表記・表現	○B5変形版を採用し、持ち運びに適した配慮がされている。教材ごとに4つの視点がマークで示され、索引を内容項目ごとに色分けする等目次に工夫がある。 ○1年の本文は、数字以外はひらがな表記され、分かち書き、文節改行がされている。2年以上の教材には、当該学年の配当漢字に全てルビが付されている。
総 括	○各教材末には自分や日常生活に結び付けたり、問題を解決したりするための発問が「考えよう・話し合おう」として示されている。いじめや共生等の現代的な課題を効果的に学習できる工夫としてユニット形式の教材配置を取り入れている。全学年「生命の尊さ」の教材が3つ掲載され、実感を伴って生命の連続性、有限性などについて考えることができるように工夫がされている。

道徳科調査資料

書名 項目	『 小学道徳 生きる力 』 『小学校道徳 生きる力 道徳ノート』 発行者番号 116 発行者名 日 文
内 容	＜道徳の目標に関わる工夫＞ ○各教材冒頭には内容項目に即したキーワードが示されている。読み物の前に道徳的価値について考えられるような発問例が提示され、導入に活用できる。 ○各教材末尾に発問例「考えよう」「見つめよう・生かそう」がある。「見つめよう・生かそう」は、自己の生き方について考えを深める発問になっている。 ○別冊「道徳ノート」が用意され、教材毎に自由記述欄、学習に対する自己評価欄がある。文章を書く欄と自由にかくことができるスペースが用意されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○いじめに係るユニットを全学年で3回分配置し、目次に「人との関わり」として示している。教材+教材、教材+コラムなど、多様な組み合わせになっている。 ○全学年で情報モラルに係る教材を扱い、あわせて、情報モラルに関する知識や活動を取り入れることができる資料が用意されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○低学年では物語教材を多く取り入れ、絵や写真で視覚的に課題を見付けることができる。高学年では、実在する人物を取り上げた教材が多く掲載されている。 ○1年の道徳ノートの前半は、文字の未習への配慮から、丸を付けたり、色を塗ったりすることによって、自分を見つめ直すことができるようになっている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○1年から学習の手引きとして「道徳の学び方」が用意されている。「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」の一連の流れで考えることを示している。 ○問題解決的な学習や体験的な学習等、多様な学習活動ができる「ぐっと深める」が各学年5教材程度設定されており、目次にマークで示されている。 ＜郷土（埼玉）に係る教材等について＞ ○5年には規則の尊重について学ぶため、埼玉県内のある地域にあるマンションを題材にした「住みよいマンション」、6年には親切、思いやりについて学ぶため、羽生市出身の宮澤章二の詩「行為の意味」が掲載されている。
資 料	○いじめ、情報モラル、SDGs、多文化共生、自己肯定感の5つのテーマについて、全学年に、コラムや書く活動例等の「心のベンチ」が用意されている。 ○各教材の冒頭に QR コードがあり、朗読音声・動画や画像を閲覧でき、「道具箱」として、心情メーターやワークシートなどの思考ツールも用意されている。
表記・表現	○AB版を採用、イラストや写真、図版が大きく掲載されている。学年によって文字の大きさや行間スペースを変更し、児童が読みやすいように工夫されている。 ○低学年では分かち書き、文節改行が用いられている。当該学年以上の漢字にルビが付されている。難解な語や必要な情報については、脚注で解説されている。
総 括	○別冊で「道徳ノート」が用意されており、各ページには教材名のみが示され、授業で自由な使い方ができるようにしている。教材冒頭には主な登場人物と条件・状況が書かれており、教材を読む前に児童に示すことで考えるきっかけとなる。「ぐっと深める」は、問題解決的な学習や体験的な学習、図式化・言語化など、児童の思考を深める多様な手立てを取り入れた活動例等を示している。

道徳科調査資料

書名 項目	『 小学道徳 ゆたかな心 』 発行者番号 208 発行者名 光文
内 容	＜道徳の目標に関わる工夫＞ ○巻頭のオリエンテーションには、発達の段階の応じた思考ツールが掲載されており、自分の考えを視覚化して整理できるような工夫がされている。 ○各教材の冒頭には授業の導入に活用できる問いかけが掲載されており、児童自身が主題に関わる問題意識をもち、主体的に考えられるようになっている。 ○巻末の「学びの足あと」では、振り返りを文字に加え、低学年は気持ちに合う顔を、中学年以上は気持ちを矢印で記録し、自己の成長を実感することができる。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○情報モラルやレジリエンスについて、全学年にコラムが設けられ、発達の段階を考慮し教材が配置され、系統性を踏まえて理解が深められるようになっている。 ○SDGsを扱ったコラム「みんなでつくる『わたしたちの未来』」が全学年に設けられ、問題意識をもち、自分事として考えられるよう工夫されている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○いじめや命、発達の段階に応じた学年独自主題が「重点主題」として設定され、連続した複数時間で扱い、多面的・多角的に考えられる構成になっている。 ○学年独自主題では、「人間」を主としたテーマが設定され、1・2年、3・4年、5・6年と段階的に自己から他者へと考えを広げられるように工夫されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○巻頭の「いろいろなやり方で考えてみよう」や「話し合ってみよう」では、考えのまとめ方や話し合いの仕方を掲載され、考えを深める工夫がされている。 ○体験的な学習として「みんなでやってみよう」が全学年に設定されており、疑似体験する活動により、よりよい人間関係づくりにつながる工夫がされている。 ＜郷土（埼玉）に係る教材等について＞ ○4年では、奥秩父の山々の美しさを扱った「十さいのプレゼント」や川越市のマークを扱った教材がある。3年では、作者が和光市出身の大石真氏による教材「貝がら」が掲載されている。
資 料	○漫画やアニメをもとにした教材、スポーツ選手や先人についての実話に基づいた教材を、漫画形式や写真、一枚絵等の多様な表現方法で掲載している。 ○QRコードから教材理解をサポートする動画や写真、WEBサイトなどを閲覧することができるデジタルコンテンツが用意されている。
表記・表現	○AB判を採用、UDや多様性に配慮がされている。読み取りに差異が生じないように、3年までは全ての漢字、4年以上は当該学年以上の漢字にルビが付いている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークと色で示されている。巻末には、4つの視点と内容項目ごとに分類され示されている。
総 括	○道徳授業のオリエンテーションに活用できる多様なページが設定されている。教材冒頭には導入で活用できる問いが用意されており、主題に関わる問題意識をもつことができる。各学年に重点主題が設定され、連続した複数時間で扱い、多面的・多角的に考えることができる。巻末に「学びの足あと」が設けられ、言葉と図を用いて学習の記録を積み重ね、自分の学びを見つめ成長を実感できる。

道徳科調査資料

書名 項目	『 新版 みんなの道徳 』 発行者番号 224 発行者名 学 研
内 容	＜道徳の目標に関わる工夫＞ ○主題名は教材ごとに示さず、巻末に内容項目と併せて示されており、教材を読み進めながら児童自らが問題に気付き、考えられるような構成となっている。 ○教材名下部には、文中の印象的な言葉などを「キーフレーズ」として示し、教材への関心を高める工夫がなされている。また、導入に生かすこともできる。 ○教材末の「考えよう」や教材中に示されるマーク『○・！・？』で、児童が自己を見つめ、考えるきっかけとなるような発問や活動例が用意されている。 ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○巻頭の「つながる私 広がる私」に示された現代的課題マークが各教材に示され、身の回りの課題に目を向けて自分の生き方について考える工夫がされている。 ○「いのち」「多様性」「キャリア」の3つのテーマのユニットが用意され、内容項目の異なる複数の教材を用いて多面的・多角的に考えを深めることができる。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞ ○全学年で巻頭のオリエンテーション「道徳の学習が始まるよ」が設けられ、発達の段階に即した、道徳の学習における考えを深める方法が示されている。 ○低学年では漫画形式の教材、高学年では歴史上の人物やスポーツ選手を取り上げた教材など、児童が関心をもちやすい教材が多く掲載されている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○教材末に「深めよう」が用意されているものがあり、「つかもう」「探そう」「ふみ出そう」の一連の流れで進める問題解決的な学習が提案されている。 ○「こころのパスポート」のページでは、教材での学習をもとに、体験的な活動や実生活との関わりを通して、考えを深められるよう工夫されている。 ＜郷土（埼玉）に係る教材等について＞ ○3年で和光市出身の大石真氏の教材「貝がら」、5年で羽生市出身の宮澤章二氏の詩「行為の意味」、熊谷市出身の荻野吟子の教材「女性が医師になれる社会へ」、6年の資料で深谷市出身の渋沢栄一翁が取り上げられている。
資 料	○先人や現在活躍する人など、さまざまな人物が教材に取り上げられ、その人物の生き方に触れながら自己を見つめ、考えを深められるよう工夫されている。 ○随所に記された QR コードからデジタルコンテンツにアクセスし、教材理解を助ける写真や動画、教材に関連したクイズなどを閲覧することができる。
表記・表現	○AB 判を採用し、読みやすさに配慮した改行が施されている。当該学年以降の漢字すべてにルビが付され、1年はカタカナにもルビふりがされている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークと色分けで示されている。現代的課題との関連についてのマークも記されている。
総 括	○児童自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことができるよう、教材冒頭には主題名を記載せず、巻末に内容項目と併せて示されている。教材の関連ページ「深めよう」「心のパスポート」や、考えるきっかけを示すマーク『○・！・？』で、自分事として考えを深めさせるよう工夫されている。QR コードでデジタルコンテンツにアクセスし、教材の関連写真や動画等の視聴ができる。